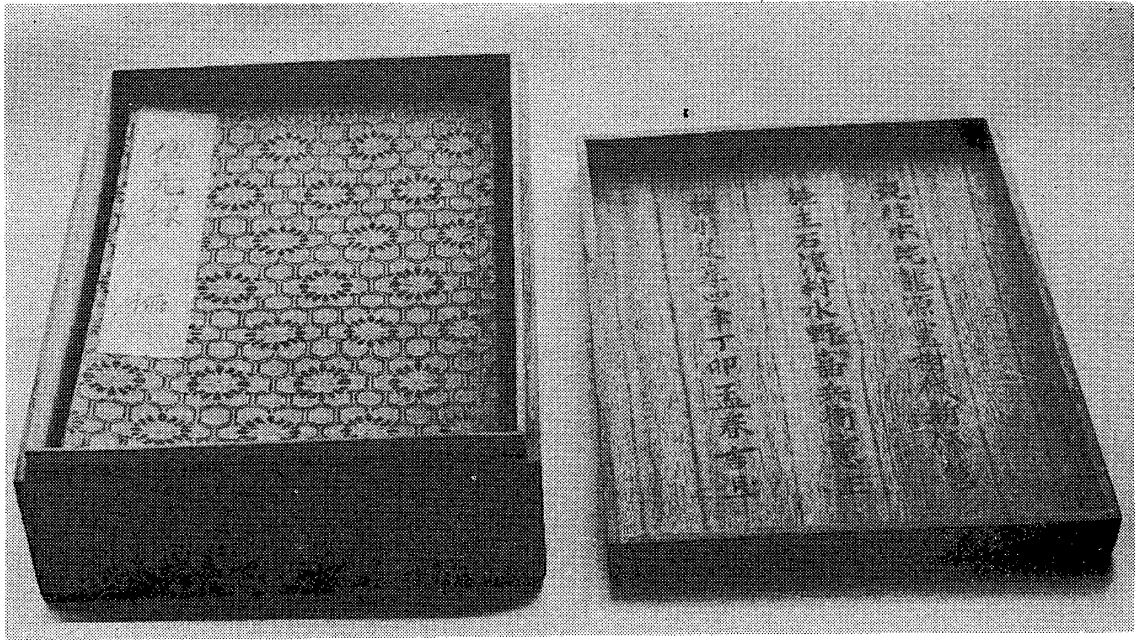


乾坤院本傳  
光  
錄  
徧

東  
隆  
眞  
校訂



〔図版 1〕 乾坤院本伝光録桐箱蓋の裏側の墨書と徧巻表紙

紹理大和尚住能州洞谷山永光寺結錫 侍者編  
 即於正安二年正月十日始請益  
 擇迦年庄佛見明星悟道曰我今大地有情同時成  
 通大教迦年庄佛而天月種姓十九歲子夜滅  
 了壇持山斷髮更引以來苦行六年落行年  
 了金野座上坐鉢細有向入鵲巢項上安  
 重坐迦安住不動六年端坐三十歲臘月八日  
 明生此時了千二悟道最初獅子吼云此言  
 アリ其ヨリ以來四十九年一日獨在る一  
 時云為元不說法ト與一夜鉢カニフトナシテ石

〔図版2〕 乾坤院本伝光録徧卷冒頭本文  
 (寸法、縦25センチ、横17.5センチ)

命乃永光  
 生達子見授一个達今一法悟今達とは達  
 轉悟十九轉達ナストとは意者本悟人ナリ何れナリ  
 有何達悟下有改宗和尚之明之無悟は即達人長  
 仰而脚肚無傷亦無直無是通辨如是難達如是初机後  
 字子細長微如是手協地至之所者何人己若覺地死也  
 上之人言同達同是即無繩自縛衣も之有將行  
 故指快痛其子細太引了若成微見明何う而微  
 至又無微亦言法此因緣指説也下要同也事云云  
 年三多神非内外同也同也同也

共二冊 三代和尚御親筆也依大破  
 懺悔之施主石濱号水野嘉兵衛憲正  
 走享四丁卯歲春王 雲孫靈樹謹識

〔図版3〕 乾坤院本伝光録徧卷末本文と裏表紙墨書

## 凡 例

一、傳光録は、道元禪師（一二〇〇—一二五三）第四世の法孫で、日本曹洞宗太祖と尊稱されている瑩山紹瑾禪師（一二六八—一三二五）が、正安二年（一一三〇）正月十一日から加州押野莊野々市字外守の大乗寺（現在地・石川縣金澤市長坂町）で、その會下の參學者に提唱せられた説法を、禪師の侍者が編録したものと伝えられている。すなわち、瑩山禪師の語録である。その内容は、釋尊を佛法正傳の根源として、菩提達磨（五三四寂）から大鑑慧能（六三八—七一三）を経て青原行思（七四〇寂）へ傳わり、洞山良价（八〇七—八六九）雲居道膺（八三五—九〇二）とつらなり、天童如淨（一一六三—一二二八）永平道元（一二〇〇—一二五三）孤雲懷辨（一一九八—一二八〇）に至る、インド・中國・日本の五十三祖師の大悟とその相續とを拈提したものである。光を伝える語録と題されるゆえんである。おそらく、日本禪宗史上、こうした内容の語録は、他に類を見ないであろう。實に、獨自の性格をもった代表的な禪の書と言える。わが曹洞宗では、傳光録は、道元禪師の正法眼藏とともに根本宗典として尊重され、學道の指南書となつてゐる。

二、現存する傳光録の寫本で、乾坤院本のほかに知られているのは、加賀松山寺本二冊（融山泉祝寫・一六二四年頃）三河長圓寺本五冊（暉堂宋惠寫・一六三七年二月）能登永光寺本五冊（雪溪安宅寫・一七一五年夏）越前大本山永平寺本二冊（同寺安居僧十名寫・一七

四六年）永久岳水氏所藏本四冊（端倪寫・一七四七年冬）石川俊康氏所藏本六冊（無禪寫・一七五四年）松下圭道氏所藏本五冊（南極寫・一七六七年十二月）兒玉達童氏舊藏本一冊（江戸中期以前寫？）信濃大昌寺本四冊（瑞應聖麟寫・一七九五年四月）横關了胤氏舊藏本四冊（當闡寫・一八一四年五月）東隆眞所藏本五冊（玉州大泉寫・一八〇五年八月）などの十本餘を數えるがいずれも江戸期の再寫にかかわる。従つて、原本を見ることは出来ない。また、いまの大乗寺、總持寺の法藏にも、寫本を探し出すことは出来ない。右に擧げた寫本のなかには、その後行方不明のものが一、二本ある。然しこのほかにも、なお多くの寫本が諸方に秘在していることは、關係古記録からみて疑いないところである。

次に、刊本は、安政四年（一八五七）九月二十二日、近江清涼寺の佛州仙英和尚（一七九四—一八六四）が瑩山和尚傳光録二冊として京都柳枝軒から開板したのが最初である。これに續いて、仙英本安政六年版、明治初年版（東京・森江佐七、淺倉久兵衛出版）明治十八年十一月版（京都、出雲寺文二郎出版）がある。更に、大内青巒校正本（明治十八年八月十八日大本山總持寺藏版、明治四十三年東京一喝社發行の禪學大系祖錄部に三に收録）笠間龍跳校正本（明治二十年一月十五日名古屋梶田勘助出版）吉田義山編輯本（明治二十一年一月廿日京都河村泰太郎出版）古田梵仙校閱本（明治二十一年三月東京森江佐七出版）禪宗聖典續編本（大正五年東京無我山房發行）陸鉞巖漢譯本（大正六年名古屋圓通寺僧堂發行）傳光録白字辨本（大正十四年三月二十五日大本山總持寺藏版）曹洞宗全書本（昭

和五年曹洞宗全書刊行會發行）大正新脩大藏經本（昭和六年大藏出版會社發行）孤峯智瑤本（昭和九年四月八日東京鴻盟社發行、昭和十七年二月、昭和三十一年四月、同社より訂正増補して重版）大乘實踐會本（昭和九年金澤大乘寺大乘實踐會渡邊玄宗發行）常濟大師全集本（昭和十二年東京代々木書院發行、昭和四十二年十一月二十一日 大本山總持寺再版）傳光錄詳解本（昭和十五年十月二十日東京橫關了胤著、昭和十九年九月十日東京岩波書店發行）曹洞宗宗務廳教育部本（昭和三十二年、榑林皓堂訂正）などが流布しているが、これらの殆んど全ては、前の仙英開板本を採用し、これに任意の訂正と注釋などを加えて重版したものと言つてよい。即ち、現在の傳光錄刊本は、悉くが仙英開板本を基調としている。

ごく最近に至るまで、寫本は松山寺本、永光寺本、當闍本（散佚）などが僅かに公開せられるにとどまり（横關氏前掲書參照）刊本の仙英本は、仙英和尚の善意から出た修訂が、かえつて本錄そのものの成立と撰者を疑わしめる要因を招いた。こうしたことから、宗門の一部では本錄の内容的価値を輕視し、また後代の成立であるとの説が流れるに及んだ。それは然し、仙英和尚自身のまつたく豫期しなかつたところであろう。傳光錄の本來のすがたは、仙英本以前の寫本を蒐集し、それら諸本相互の關係を實地に詳究せねばならぬのである。（仙英本の底本については宗學研究第十號拙稿參照）

三、この乾坤院本傳光錄の書寫年代及び筆寫者の名は記入されていない。延享四年（一七四四）寶園靈樹和尚の識語と、乾坤院藏七十五

卷本正法眼藏寫本の筆蹟などからして、宇宙山乾坤院第三代の芝岡宗田（一五〇〇寂）がまだ若年の時代に某僧の協力を得て再寫したものであることが愛知學院大學教授田島柏堂博士によつて鑑定されている（宗學研究第二號參照）。同博士によれば、恐らく永享二年より二、三十年の間（一四三〇—一四五九）に書寫された室町初期の古寫本ということである。即ち、從來もつとも古い松山寺本より百六十餘年以前、また瑩山禪師が提唱された正安二年より百三十年ないし百六十年後の再寫本であることになつて、現存する傳光錄のなかでは最古の寫本と言える。それゆえ、いまのところでは、傳光錄成立當初の原始的形態をうかがう唯一の貴重本である。

なお、芝岡宗田和尚は、七十五卷本正法眼藏（昭和二十八年、愛知縣指定文化財）の謄寫を完成しており、これまた七十五卷本正法眼藏の完全な形態、即ちその卷名、卷次、本文を具備する寫本として、現在のところ最古のものであることも銘記しておかなくてはならない。なおまた、長圓寺の暉堂宋恵和尚、大昌寺の瑞應聖麟和尚は、それぞれ傳光錄とともに、正法眼藏八十四卷本や正法眼藏隨聞記六卷を筆寫している。雪溪安宅和尚の永光寺本傳光錄は、その第五十祖天童淨和尚條に「正法眼藏隨聞記ニ記之」という傍注を加えていることが見える。傳光錄は、正法眼藏や正法眼藏隨聞記と切り離すことなく一體のものとして傳寫し護持されて來たのではないだろうか。むしろ、傳光錄の本文内容は、瑩山禪師の獨自の見識もさることながら、正法眼藏や正法眼藏隨聞記の記事と共通するところが多いためである。それはまた當然のことでもあろう。

乾坤院本傳光錄は、編・正の二冊本である。今回は、編の卷を復刻した。本録の具體的内容や特色については、いままで十分に明らかにされておらぬので、正の卷の復刻の末尾にあためて解説を施す豫定である。乾坤院本傳光錄の本文は、一般に流布されている仙英本系統とは、かなり大幅の相違點を示している。

乾坤院本傳光錄は、現存最古の寫本という歴史的價值をもっているが、その表記内容を他の寫本と對比すると、誤寫、脱字、蠹損、異文、錯簡など、いっいち擧げるに堪えぬほど、殆んど全文に亘つて缺點が指摘されうるのである。従つて傳光錄寫本の最善本とは稱し難い。もつとも、この缺點はひとり乾坤院本に限つた現象ではないが、とくに乾坤院本では顯著である。ここに傳光錄研究の最も大きな問題點が介在しているのであるから、十分の注意が必要とおもう。筆寫年時が古いから最善本であるとは單純に斷定できない。けれど、この種の資糧を取り扱ううえでの常識であらう。

然しながら、乾坤院本のこうした缺點は、そのまま傳光錄の原形を探り、傳寫の系統を辿る有力な手がかりともなるのである。それゆえ、いま私意をさしはさまず、細心の注意を傾注して、本文のありのままを忠實に復刻すべきであらう。

いま、校者がもつとも用心したのは實にこの一點である。この作業が完全に遂行されることこそ、校者が久しく念願とする傳光錄定本への一步前進を導くことになる筈だからである。即ち、この乾坤院本傳光錄校訂は、傳光錄異本の校合と本文批判、傳光錄定本の制作を目指している校者の第一歩の任務を果すものである。ただ校者

の非力が祖師の聖文を誤寫してはいないかをひたすら恐れるのみである。諸賢の御叱正を乞うて止まない。

四、直前に述べたとおり、その全體として、校者は乾坤院本傳光錄の原文を忠實に復刻することを主眼とした。従つて、訓點や假名遣いなどは、原文の通りにしておいた。それゆえ、このままでは解讀が極めて困難であることが予想される。その意味では、この復刻の傳光錄は、一般のかたがたに對して不親切であることをお斷りしておかなくてはならない。どこで句切りをつけるか、漢文の個所はどのようにに訓點を與えればよいか、假名遣いは原文のままで妥當かどうかといった問題は、傳光錄の宗義内容を左右する問題である。これらについては、次の段階の作業として、別に論ずる用意がある。そこで、ここでは、本文の暫定的な處理として、左のように定めておく。

錯簡については、松下本、東本によつてその個所を指摘しておいた。

文字の蠹損、磨滅などで判讀しがたいところのうち、原文を推察しうるものは、同系統の寫本である長圓寺本などによつて補い、そのことを指摘しておいた。

誤寫のうち、重複部分の見消、抹消なども、原文を尊重してありのままを表記し、そのことを指摘しておいた。

聞きまちがい、書きまちがい書きくせなどによつて生じたであろう當字や誤字と思われるものについて、國語學的な語法の問題として取り扱うことは暫らく伏せ、現段階に於て可能な限り、意味内容

のうえから考えてそのことをその傍に指摘しておいた。これは非常に多い。

異體漢字および略字・書きくせ或いは古體假名など、出来るだけそのままに印刷したが、印刷の都合上改めた場合もある。

この編巻は全七十一紙で美濃紙が使用されている。その上端、下端ともに約三センチの空白があり、行数は片面十行書きで、一行はだいたい十四字から三十字より成り立っている。正巻もまた同様である。この行數、字數は原文のままに載せたかったが、印刷經費の關係もあつて果せなかつたことをお断りしておく。

五、乾坤院本傳光錄は、昭和三十四年（一九五八）十一月十五日、田島柏堂博士が愛知縣知多郡東浦町緒川の宇宙山乾坤院の史料調査の際、發見された。當時の乾坤院住持、長尾說道老師の御好意で愛知學院大學に寄託されて現在に至っている。校者は、昭和三十八年（一九六二）八月二十五日、長尾說道老師を影向寺の閑居に訪らい乾坤院本傳光錄の拜覽と公開を請い快諾を受けた。その翌日、長尾通之氏の御同道を得て、田島博士に通じ、愛知學院大學圖書館に赴き、乾坤院本傳光錄の全紙を寫眞撮影する光榮に恵まれた。本錄の復刻にさきだつて、その経過をしるし、御協力下さつた右のかたがたに深い謝意を表したいと思う。

六、本錄の復刻にあつては、駒澤女子短期大學長小川弘貫博士の格別の御被護と御指導を賜わり、また駒澤大學教授鏡島元隆博士の御

教示を仰いだ。ここに謹んで兩先生のひごろの學恩を感謝し、永く心に刻んでおきたい。

昭和四十三年一月

東 隆 眞 謹識

桐箱の蓋の表側  
の墨書  
靈樹の書き入れ  
か

傳 光 錄  
血 脈 集  
小 師 牒  
三 尊 傳

二 冊  
一 冊  
一 冊  
二 冊

桐箱の蓋の裏側  
の墨書  
靈樹の書き入れ  
(圖版1 參照)

現 住 本 院 龍 源 靈 樹 代 新 添 宮  
施 主 石 濱 村 水 野 嘉 兵 衛 憲 正  
維 時 延 享 四 年 丁 卯 孟 春 吉 旦

第一冊の表紙の  
題簽  
靈樹の書き入れ  
か  
(圖版1参照)

傳  
光  
錄  
編<sup>(ママ)</sup>

紹瑾大和尚住能州洞谷山永光寺語錄 侍者編

師於正安二年正月十一日始請益

釋迦牟尼佛

天の下にノ一字あるか

月は日か

始は姓か

メはシテの意以下おなじ

落は樂か

トはコト(事)の略字以下おなじ

暫モ時モは暫時モか

年は不要か

チはテのかきく

セ。以下おなじ

三百の下に六十

の二字を補うべきか

コトナクは異ナ

リの意か

錯簡。第四祖

ノ章ノ末堅キ

石ノ如クシテ

云フヨリ結語ニ

至テ都テ五行餘

ハ釋尊ノ章三葉

上面且問スト云

下ニ雜入ス(松

卷末)東本第五

下本

廣は慶の略字。

以下註記省略

第一祖  
摩訶迦葉尊者

ウシユツは烏瑟

者は尊か

釋迦牟尼佛見明星悟道曰我與大地有情同時成道 夫釈迦牟尼佛西天月種始十九歲(マヤ)子夜ニ城ヲコヘ壇特山ニノ斷髮ス 夫ヨリ以來苦行六年落行(マヤ)六年ツイニ金剛座上ニ坐メ蛛網ヲ眉間ニ入レ鵲巢ヲ頂上ニ安ノ葦シ坐ヲ通ス安住メ不動六年 端坐シ三十歲臘月八日明星出シ時タチマチニ悟道シ最初獅子吼スルニ此言アリ其ヨリ以來四十九年一日モ獨居スルコ 無暫モ時モ為元不說法コト無シ一衣一鉢カクルコトナシ三百六十余年會時ニ說法ス終正法眼藏摩訶迦葉ニ付囑ス流 傳シテ今ニ及實梵漢和國三國流傳ノ正法修行スルコト是ヲ以根本トス彼一期行狀ヲ以遺弟ノ表準タリ縱三十二相八十種 好ヲ是具足スト云トモ必老比丘ノ形ニシチ人ニカワルコトナシ故ニ在世ヨリ以來正像末ノ三時彼ノ法儀ヲシタウモ ノ佛ノ形儀ヲカタトリ佛ノ受用ヲ受用ノ行住坐臥片時モ自己ヲ先トセサルコトナシ佛ノ祖ノ單傳(マヤ)來チ正法不斷絕今 ノ因緣分明ニ指說ス縱四十九年三百余會指說ルコトナク云トモ種々因緣譬喻言說此道理ヲ過ス所謂我ト云ハ釋迦牟尼 佛ニ非釋迦牟尼佛モ此我ヨリ出生シ來ル只釋迦牟尼佛ヲ出生スルノミニ非大地有情モ此ヨリ生出ス大綱ヲ拳時衆目悉 拳力如ク釋迦牟尼佛成道スル時大地有情モ成道ス只大地有情成道スルノミニ非三世諸佛モ皆成道ス雖恁(マヤ)釋迦牟尼佛於 成道思ヲ作「無レ大地有情ノ外ニ釋迦牟尼佛ヲ見コトナカレ縱山河大地悉羅萬像悉々タルトモ悉是瞿曇ノ眼睛裡ヲ不 免汝等諸人又瞿曇ノ眼睛裡ニ立セリ立セルノミニ非ス今諸人ニ換却シ了瞿曇ノ眼睛肉團子ト成テ人々ノ全身ケ、壁立 萬仞セリ故ニ亘リ古亘テ今ニ明々タル眼睛歷々諸人ト思フナカレ諸人是瞿曇ノ眼睛也瞿曇即是諸人ノ全身也若恁(マヤ)廣ナ ラハ何ヲ喚カ成道底ノ道理トセン且問ニ堅コト石ノ如ノ幾圓ノ人本色失シ全身ヲ打碎テ徒ニ籌ヲナケチ空ノ數ヲ取り 空クヲノレヤイチ空ノ跡ヲ殘ス今日大乘兒孫ヲ雲外ニ尋言ヲ青天ニツケント思諸人要聞シコヲ(マヤ)廣

家破レ人亡(マヤ)非ス内外身心何處(マヤ)隱形ヲ來ラン

第一祖摩訶迦葉尊者因世尊拈華瞬目迦葉破顏微笑ス世尊曰吾有正法眼藏涅槃妙心付囑摩訶迦葉、者姓婆羅門梵(マヤ)迦葉 ト此ニハ飲光勝尊ト云尊者生時金光室ニ滿チ光悉者者ノ口ニ入因飲光稱ス其身金色ニメ三十二相ヲ具足セリ只ウシユツ白

フサスは臥サズ  
の意か

ハは不要

ンはニか  
聲は聞か

クヲ不は多クの  
意か

ヌはズの誤り  
圓の下カニの二  
字を補うべきか

却は劫の誤り。  
深は沈の誤り

タの下フの一字  
脱落  
ヤはメの誤り

令は今の誤りか

毫欠タルノミ也多子塔ノ前ニシテ世尊アイ(ママ)遇奉ル即正世尊善(ママ)法来比丘ト言シニ髮速ニ落チ袈裟鉢ニ掛ル即正法眼藏ヲ以チ付囑  
シ十二頭陀ヲ行メ十二時中空クフサス然トモ一會悉不知只形ノ憔悴シ衣ノ染汚ハセセン(ママ)ルヲ見チ一會悉クイヤシム是ニ因  
テ処ノ說法ノ會コトニ釋尊座ヲ分チ迦葉ヲ居セシム然ヨリ衆會ノ上座タリ只釋袈牟尼佛一會ノ上座タルノミニ非ス  
過去諸佛ノ一エン不退ノ上座タリ可知是古佛ナリト云ヲ唯諸聲ア(ママ)聳ノ弟子中ニ排列スルコト莫レ然ニ灵山會上ニノ百万  
大衆前ニメ世尊拈華瞬目ス皆心ヲ不知默然タリ時摩訶迦葉獨破顏微笑シチ即示ア(ママ)チ言吾正法眼藏涅槃妙心アリ圓妙無相  
ノ法門悉大迦葉ニ付囑ト所謂彼時ノ拈花ハ祖ト相傳シ來テミタリニ外人ヲシチ知シムルコトナシ故ニ經師論師クヲ不  
ノ禪師ノ知ヘキ処ニ非ス實ニ知ヌ其實処ヲ不知ヲ雖然恁ア(ママ)廣恁廣ノ公案灵山會上ノ公案ニ非ス多子塔ノ前ニ付囑セシ  
時ノ言ナリ諸ノ傳灯錄普灯錄等ノ說ニノスル処是灵山會上ノ說ト云コトニ非ス最初佛法ヲ付囑セシ時如是ノ式アリ故  
ニ佛心印ヲ傳ル祖師ニ非レハ彼拈華ノ時節ヲ不知又彼拈花ヲ明メヌ又諸禪德子細參到メ子細見得メ迦葉ノ迦葉タルコ  
トヲ知釈迦ノ釈迦タルコトヲ明メ深ニ妙道ヲ圓單傳スヘシ拈華ハ暫置ク彼瞬目セシ処人ニ明來ヘシ所謂汝等尋常揚眉  
瞬目スルト復是瞿曇ヲシチ拈華瞬目セシメシト一毫髮モ不隔汝等ヲシチ語話微笑セシムルト廣訶迦葉ヲシテ破顏微笑  
セシメシト毫髮モ異コトナシ然トモ彼揚眉瞬目セシムル者ヲシチ明メサレハ西天ニ迦葉アリ自身ニ皮肉骨髓アリ許多  
眼花少多ノ浮塵無量却來不曾解脫未來劫モ亦深倫スヘシ若一度彼主人ヲメ識得セハ摩訶迦葉正汝等諸人鞋裏ニ在テ動  
指スルヲエア(ママ)ン不知ヤ瞿曇瞬目セシア(ママ)処瞿曇則滅却了ア(ママ)ヲ迦葉破顏セシア(ママ)処ニ得悟シ來ア(ママ)ヲ是則吾有非ア(ママ)ヤ正法眼藏却自己  
ニ付囑了ス故ニ因迦葉トスヘカラス呼不可為ア(ママ)釈迦ト曾一法他ニアタルア(ママ)無ク一法ノ人ニ受ル無シ是ヲ喚ア(ママ)チ正法トス彼ヲ  
顯花ヲ拈ア(ママ)チ不變ナルヲ知シア(ママ)ヤ顏ヲ破ア(ママ)チ長齡ナルヲ知シム恁ア(ママ)廣師資相見命脉流通ス圓明ノ了知心念ニ不涉正ク意根  
ヲ坐斷メ雞足山ニ入遙慈氏下生ヲ待故摩訶迦葉今不入滅諸人若子細ニ參徹メ閑ア(ママ)學道ア(ママ)通ア(ママ)ハ迦葉不滅ノミニ非釈迦モ亦常  
住ナリ故汝等諸人曾未生直指單傳メ亘古直今築着ア(ママ)磴着故諸人二千年前昔時ア(ママ)シチ思慕スルヲ莫レ只今日急辨道ア(ママ)ハ迦葉  
非入雞足正扶桑國ニ在世スルヲ得ア(ママ)ン故釈尊ノ肉身今猶アタ、カニ迦葉微笑又更ニ親ア(ママ)ン恁ア(ママ)廣田地ニ到得ハ汝等却迦  
葉ニ紹ア(ママ)迦葉却汝等ニ受ア(ママ)ン七佛ヨリ汝等ニ至ア(ママ)ノミニ非汝等正七佛ノ祖師タルヲ得ア(ママ)ン無始無終去來ア(ママ)令ア(ママ)ヲ絕即是正法眼藏

モは不要か

ニは不要か

ノはシテの誤り

明は不明とあるべきか

シコウは伺候の意か

第二祖  
阿難陀尊者

娑は不要

ハはニの誤り

生は正の誤り

ウはクの誤り

テは以の下にあるべきである

ママは一ニか

果は果の誤り

以下註記省略

カキは鍵の意か

坐は座の誤り

付囑有在ラン是因<sup>(ママ)</sup>チ釈迦<sup>(ママ)</sup>モ迦葉<sup>(ママ)</sup>モノ付囑得却兜率天ニ在テ干今有在也汝等モ灵山會上ニメ不變易ナリ不<sup>(ママ)</sup>ヤ見道ヲ常  
在灵鷲山及餘諸住处ニ大火所燒時我此土安穩只灵山會上ノミニ非ス所住处ト云豈梵漢本朝亦モル、コト有ンヤ如来ノ  
正法流傳ノ一毫髮モ欠クコトナシ若然此會ハ是灵山會タルヘシ灵山ハ是此會タルヘシ只諸人ノ精進ト不精進トニ因テ  
諸佛頭出頭沒セルノミナリ今日モ頻辨道シ子細ニ徹通セハ釈尊直ニ出世也只汝等ノ自己明因<sup>(ママ)</sup>チ釈尊昔時入滅ス汝等已  
佛子タリ如何佛ヲシテ亦殺ヲ得ン故ニキウニ辨道メ速慈父ト相見スヘシ尋常釈迦老漢汝等ト共ニ行住坐臥シ汝等ト  
共ニ言語シコウス一時モ相離<sup>(ママ)</sup>ナシ宛鄧隱峯ノ洞山ノウシロニ在カ如シ一生若彼老漢ヲ不見諸人悉皆不孝ノ人タラン  
既佛子ト云不孝ノ者ナラハ千佛ノ手モ不及今日大乘子孫又恁广道理指說セントスルニ早語アリ諸人要聞<sup>(ママ)</sup>广

可知雲谷幽深底更<sup>(ママ)</sup>有<sup>(ママ)</sup>三<sup>(ママ)</sup>火松歷<sup>(ママ)</sup>歲寒ヲ

第二祖阿難陀尊者問迦葉尊者云師兄傳金襴袈裟外別傳ケ什广迦葉召阿難<sup>(ママ)</sup>と應諾迦葉云倒却門前刹竿着阿難大悟夫  
阿難尊者ハ王舍城人也姓者刹帝利父斛梵王實ニ佛ノ從弟ト云ハイトコ也梵語ニハ阿難陀ト云此ニハ慶喜ト云又ハ歡喜  
ト云如来ノ成道ノ夜ハ生容顏端生メ十六國倫トスルナシ見人コトニ歡喜ス故名トス多聞第一ニメ聰明博達也佛侍者ト  
メ二十年說法トノ宣說セサルナク行儀トメ学来サルナシ世尊迦葉ニ正法眼藏ヲ傳付セシキサミ同ウ阿難ニ付囑云汝正  
副戴傳化スヘシト是因<sup>(ママ)</sup>チ迦葉ニ隨コト亦二十年然メ所有正法眼藏悉以通達セスト云コトナシ夫祖師ノ道他家不類<sup>(ママ)</sup>是  
テ以可知證本阿難既多聞第一廣博學達也佛マと聽許シマシマス事多シ然トモ猶正法ヲ傳持シ心地ヲ開明スルコトナシ  
迦葉頻婆羅窟ニメ如来ノ遺教ヲ結聚セントセシ時阿難未證果セサルニ因<sup>(ママ)</sup>チ彼室ニ入事不許時阿難密ニ思惟メ速ニ阿羅  
漢果ヲ證ス然メ入ラントスルニ迦葉言已證セハ神通ヲ現入ト時阿難少身現シカキノ穴ヨリ入ル終頻婆羅窟ニ入ル諸弟  
子悉云阿難佛ノ給仕トメ多聞廣也一器ノ水ヲ一器ニ傳ルカ如少ノ遺漏ナシ願ハ阿難請<sup>(ママ)</sup>チ再說シメン迦葉阿難ニ告言衆  
悉汝ヲ望汝再坐ニ登チ講說セヨ時阿難密ニ如来ノ付囑ヲ期亦迦葉ノ所請ヲ受ク終ニ起衆ノ足ヲ礼シ座登テ如是我聞一  
時佛住ト宣說メ一代聖教悉宣說ス迦葉諸弟子ニ告云如来ノ諸說トカハレリヤ不諸弟子ノ云如来ノ諸說一字モカワレル  
コトナシ諸弟子皆是三明六通ノ大阿羅漢也聞漏スルコト無シ異口同音云不知是ハ如来再来マシマスカ是阿難所說カト

ルは不要か

時は味の誤りか

折は抑の誤り

ノは佛の下にあるべきか

弄は算か

雄は勇の誤りか

レウシは獵師か

ヒはニか

メはノか

弄は算か

リはタか

チキは敵の意か

疑ウ是因<sup>(ママ)</sup>チ佛法大海水流入ス阿難ノ身ト讚歎ス如来所說今ニ流傳ス是阿難所說也實知道多聞ニ不依證<sup>(ママ)</sup>果<sup>「フ」</sup>ニ不因<sup>「フ」</sup>是以證  
拠トスヘシ然猶迦葉ニ隨<sup>(ママ)</sup>チ二十年今ノ因緣ノ所ニノ始大悟ス故既如来成道ノ夜生<sup>(ママ)</sup>セシ人也華嚴等ハ所不聞也然トモ佛  
ノ覺<sup>(ママ)</sup>ル三時<sup>(ママ)</sup>ヲ得所ヲ不聞宣說ス然トモ祖師道ニ於不入コトハ我等力カニ入全以チ一同也折<sup>ソモ</sup>阿難<sup>(ママ)</sup>乃往過去昔空王<sup>(ママ)</sup>ノ佛  
ミモトニメ今ノ釈迦佛ト同時ニ阿耨多羅三藐三菩提心ヲ發<sup>ヲコシテ</sup>阿難ハ多聞ヲ好ム故今ニ正覺ヲ不成佛ハ精進ヲ修シキ是  
因テ等正覺ヲ成玉キ實知ル多聞道ノ障礙タルコト是ハ其證拠也故花嚴經云譬如貧窮人弄<sup>(ママ)</sup>他寶自無半錢分多聞モ亦復如  
是親切ニ此道ニ結着<sup>(ママ)</sup>セント思ハ多聞ヲ好ムコト莫<sup>(ママ)</sup>レ直雄猛精進スヘシ然有時敢保スラクハ迦葉世尊金襴袈裟ヲ傳定<sup>(ママ)</sup>チ  
其怪事アルニ因<sup>(ママ)</sup>チ終<sup>アフシミイレテ</sup>怪內問曰師兄金襴衣ヲ傳外何傳迦葉時至ルヲ知<sup>(ママ)</sup>チ阿難ト召阿難應諾ナス声ニ應メ云倒却門前  
刹竿着阿難爰大悟ス佛衣自然阿難頂上ニ來入ス其金襴袈裟ト云ハ正七佛傳持ノ袈裟也彼袈裟ニ三ノ說アリ一ハ如来胎  
內ヨリ持スト一淨居天是ヲ奉ト云一ハレウシ是奉ト三說不同也袈裟又臥具ト云又坐具ト云所謂有時袈裟ヲタ、ンチ迦  
世<sup>(ママ)</sup>シメキ<sup>コレ</sup>是因<sup>(ママ)</sup>チ坐具臥具ノ名アリ然ニ今金襴袈裟ト云或金鏤袈裟ト云一說ニ金襴ト云金絲縷袈裟也有說云只佛衣恭  
葉ヲ坐敬處也必金鏤ニ非ス是今阿難傳附袈裟也青黑色唐ニ至後青ウヲウチリ今六祖塔頭ニ納<sup>(ママ)</sup>チ國ノ重寶スル則此袈  
裟也或說ハ今曹溪所傳袈裟ハ佛衣ニ非達磨ナルカト然ニ非ス此袈裟必佛衣也投火不燒婆舍斯多尊者時惡王ノ難ニ遇<sup>(ママ)</sup>チ  
火中ニメ五色光明ヲ放ツ火滅後ハ袈裟安然タリ佛衣ナルヲ知ヌヘシ正法眼藏兩付囑ナシ只迦葉一人如來付囑ヲ得阿難  
二十年又給仕メ正法眼藏傳持ス然此宗教外有<sup>「」</sup>知ヘシ然近來ヲロカニメ一同ス若一同ナラハ阿難則三明六通羅漢如來付  
囑ヲ受第二祖阿難ト云今經教ヲ會<sup>(ママ)</sup>センコト阿難ニ勝ル人有ヤ若阿難ニ超過スル人アラハ可許教意ヲ一ツナリト云ハ何ソ  
煩<sup>ツシラワク</sup>又二十年給仕シ今倒却門前刹竿着處ニメ明<sup>(ママ)</sup>ン知ヘシ教意經意本ヨリ祖師ノ道トスヘカラス佛ノ佛ナラサルヒ非ス  
給仕メ縱侍者タリト云トモ佛<sup>(ママ)</sup>メ心ヲ通處無ンハ争カ其心印ヲ傳ン多聞廣學ニヨラス事知ヘシ縱サトク耳トキニ因<sup>(ママ)</sup>チ處  
トノ書籍聖教ヲ以一字モ遺落スル處ナク聞持ト云トモ心若不ンハ通徒隣ノ寶ヲ弄<sup>(ママ)</sup>同恨經教ニ其心ナキニハ非然トモ阿  
難未通因<sup>(ママ)</sup>チ也何況唐土日本依文解<sup>(ママ)</sup>メ義ヲ經ノ心ヲ得リリト云更知ヘシ佛道イルカセニナラサルコト一代聖教ヲ通スル阿  
難如來弟子トメ宣說<sup>(ママ)</sup>センニ誰不隨<sup>(ママ)</sup>然ト迦葉ニ隨<sup>(ママ)</sup>チ再宣說<sup>(ママ)</sup>セシコト知ヘシ宛以火合水如終ニチキトナラン實道ヲ參ント

一の個所に阿難の二字を補うべき

。字畫不明。スの字を補うべき

。濁は不要か。磨滅により不明。長圓寺本によつて補う。

第三祖  
商那和修尊者

在の上に佛の一字脱落か

ヲはウカ

思ハ已見旧情ヲ捨憍慢我慢ヲ捨チ初心ヲ廻シ佛智ヲ會ヘシ所謂今因緣日來金襴ノ袈裟ヲ傳チ佛弟子タル外更別ナシト思ヘリ然トモ迦葉ニ隨チ親給仕メ後思チ知キ更通スルコト時已相契知チ迦葉阿難一召宛谷神ノ喚ニ隨響ヲ作如シ阿難則應石火ノ石ヲ離チ出カ如夫阿難ト召ハ阿難ヲ召ニ非響應シ答ニ非ス倒却門前刹竿着ト云西天ノ法ハ佛弟子及外道等論議セントスル時兩方ニ幡ヲ立若一方マクル時即此幡ヲ折負時鼓鐘ヲナラサスメ負表所今因緣モ迦葉阿難相并モ幡ノ立ルカ如爰ニ至阿難已出迦葉負ヘシ一出一沒ナルヘシ然トモ今因緣シカニ非ス迦葉モ是刹竿阿難モ是刹竿若刹竿ナラハ此理顯ヘカラス刹竿一度断時刹竿即露ヘシ迦葉倒却刹竿門前着ト指說スルニ阿難師資ノ道通スルニ因チ言下ニ大悟ト後迦葉モ即倒迦却シ山河崩壞ス是ニ因チ佛衣自然阿難頂上來入。然トモ這因緣ヲ以赤肉團上壁立千仞ニ莫留淨潔莫留進以チ谷神ノ有コヲ知ヘシ諸佛番々出世シ祖師代々指說ス只此事也心ヲ以チ心ヲ傳終人知ル処ニアラス縱露名赤肉團迦葉阿難モ是那人ノ一面兩面ニ出世スルナリト云トモ迦葉阿難ヲ以那人トスルコト莫レ所謂今ノ汝等諸人ケと壁立万仞セル彼那人ノ千變万化也若那人ヲ識得セハ諸人一時埋却セン若然倒却門前ヲ我外ニ求ヘカラス今日大乘遠孫又着ント語ヲ思諸人要聞事ヲ

藤枯樹倒山崩去溪水瀑瀾漲メ石火流。

第三祖商那和修尊者阿難陀尊者ニ問何物力諸法本不生ノ性阿難和修袈裟ノ角指ス和修又問何物諸佛菩提本性阿難又和修袈裟角ヲ取チ引ク時和修大悟ス師ハ摩突羅國人也梵ニハシヤウタキヤト云此ニハ自然服ト云和修生シ時衣ヲキチ生ル其ヨリ以來夏ハ涼キ衣トナリ冬ハ暖ナル衣トナル即發心出家セシ時俗服自袈裟トナル在ル世ニ蓮花ノ色比丘尼ノ如シ只今生恁廣ナルノミニ非ス和修昔アキ人トメ佛ニ百条ヲ奉キ其ヨリ以來世々生生ノ間自然服ヲ着ス大凡一切ノ人本有ヲ捨チ當有ニ至ラサル程此時ヲ名テ中有トス其ノ時ノ形悉皆衣ヲキス今ノ和修尊者ノ如ンハ中有ニシチモ衣ヲ着ス商那和修ト云即西天九枝秀ト云草ノ名也聖人ノ生時此草淨潔ノ地ニヲエルナリ和修生シ時此草又生キ是ニ因チ名トス在一胎ニ六年ニメ生キ昔世尊一ノ青林ヲ指チ阿難ニ語チ云此林ヲ優留榮名吾滅後一百年ニ比丘商那和修ト云有キ此所ニメ妙法輪ヲ轉シ一百年後師ハタシチ生ル終慶喜尊者ノ附囑ヲ受即此林ニト、マル尊者法輪ヲ轉ノ火竜ヲ降ス火竜飯

阿の下に難の一  
字脱落  
無の下に然レの  
二字補うべきか  
スは不要か

蛸は蛇か  
却は劫か

受は授の誤りか

伏メ林ヲ奉ル是實是世尊附囑也来記タカウヲナシ然ニ和修尊者ハ本雪山ノ仙人也阿尊者ニ投メ今ノ因縁アリ可謂何ニ  
物力<sup>(ママ)</sup>是諸法本不生ノ性ト實ニ是人<sup>(ママ)</sup>未問所也和修独問誰諸法ノ不生ノ性無トモ不知有ヲ又問コトナシ爲什广不生  
ノ性ト云萬法諸法悉此所ヨリ出生ススト云トモ此性終ニ出生スル物ナシ所以不生性ト云カルカ故諸法悉本不生也山是  
山ニ非ス水是水ニ非ス故阿難和修ノ袈裟ノ角ヲ指ス夫袈裟ト云梵語此ニハ壞色ト云不正色ト云實ニ是色ヲ以見ヘキニ  
非ス又上諸佛ヨリ下螻蛄蚊虻ニ至マテ其依報正報悉是色也一辺ノ所見如是然トモ又是声色ニ非故三界出ヘキナシ道果  
ノ證ヘキナシ如是會ト云和修再問何物諸佛菩提本性廣大却ヨリ以來不<sup>(ママ)</sup>錯恁<sup>(ママ)</sup>广ナリト云トモ一度不知有徒眼被礙故諸  
佛出生処ヲ明シ恁<sup>(ママ)</sup>广問呼隨應シ敲隨出<sup>(ママ)</sup>ヲ今知トメ故修袈裟角ヲ取引知シム時ニ和修大悟實夫無量却ヨリ以來相錯サ  
ル<sup>(ママ)</sup>如是ナリ云トモ一度築着セサルカ如ンハ自己ノ諸佛ノ智母ナルヲモ知ヘカラス是因<sup>(ママ)</sup>チ諸佛番々出世シ祖師代々  
指說ス曾一法人ニ受ヘキ無ク更一法ノ他ニ受ヘキナシト云トモ自面ヲサクリチ鼻孔ニサワルカ如クナルヘシ參禪須自  
參悟悟了<sup>(ママ)</sup>チハ人ニ遇ヘシ若人ニ遇スンハ徒ニ依木附草實ニ參禪徒ニスヘカラス一生空スヘカラサルヲ今ノ和修因縁ヲ  
以明メツヘシ徒自然天然ノ見ヲ發ヘカラス徒已見ヲ先トスヘカラス又思ヘシ佛祖ノ道ハ人ヲ揀<sup>(ママ)</sup>撻<sup>(ママ)</sup>ヲ撰<sup>(ママ)</sup>我<sup>(ママ)</sup>ラカタウル処  
ニ非ス恁<sup>(ママ)</sup>广所見實是愚劣ノ中ノ愚劣也昔人イツレカ是父母所生ノ身ニアラサリシイツレカ是恩愛名利ノ人ナラサリシ  
然トモ一度捨<sup>(ママ)</sup>チ參<sup>(ママ)</sup>セシ時必參徹メ故天竺ヨリ我朝ニ至マテ正像末ノ三時ノコトナレトモ證<sup>(ママ)</sup>果<sup>(ママ)</sup>ノゲンジャウ山ヲシメ海  
ヲシム然ハ汝等諸人見聞ヲ具足スルヲ已ニ古人ニ不異縱何ノ所ニ至トモ悉云ヘシ汝等是人也ト迦葉阿難ト四大五蘊  
カハレル所ナシ何因<sup>(ママ)</sup>チカ道ニ於古人ニカワルヘキ只急履辨道セサルニ因<sup>(ママ)</sup>チ徒<sup>(ママ)</sup>ニ人身ヲ失却スルノミニ非ス終已レ有<sup>(ママ)</sup>ヲ  
ヲ不知如是空クスヘカラスト相兼シ阿難モ重迦葉ヲ師トシ阿難陀又和修ヲ接シ師資ノ道傳通ス如是ニ流通シ来ル正法  
眼藏涅槃妙心在世ニ異ナルコト無故ニ佛生國ニ生レサルヲ莫恨佛在世ニ不<sup>(ママ)</sup>ヲ遇莫悲昔アツク種<sup>(ママ)</sup>善根ヲ深般若ノ良  
緣給此ニ因<sup>(ママ)</sup>チ大乘ノ會裏ニ集ル實ニ是迦葉ト肩ヲ並阿難ニ勝<sup>(ママ)</sup>膝<sup>(ママ)</sup>ヲ交如一日ハ賓主タリト云トモ終身ニハ即佛祖ナラン  
不<sup>(ママ)</sup>今古情ニ封セラル、ヲ無ク声色ノ法ト、コヲルヲ無ク夜間ヲモ日裏ヲモ空渡無子細ニ辨道工夫メ古人ノ徹処ニ至今  
時印說記受ヘシ適来因縁ヲ明ント思ニ只有卑頌要聞<sup>(ママ)</sup>广萬尋岩上ニ無流水穿石拂雲湧沸来散雪<sup>(ママ)</sup>花縱乱<sup>(ママ)</sup>一條白練絕塵

第四祖  
優婆多尊者

物は者の誤り  
。蠹損により不  
明。長圓寺本に  
よつて補う。

發は欲の誤りか  
句の下にヲの一  
字を補うべきか

。蠹損により不  
明。長圓寺本に  
よつて補う。

彼は波の誤り  
出の下に家の一  
字を補うべきか

愛は不要

。蠹損により不  
明。長圓寺本に  
よつて補う。

出の下に家の一  
字を補うべきか

埃

第四祖優婆多尊者執侍和修尊者三載遂為落髮作比丘尊者因問汝身出家耶心出家耶師云實ニ是身出家尊者云諸佛妙法  
豈拘身心師則大悟優婆多尊者ハ吒利國人也姓ハ首陀又ハ優婆多ト名十五歳ヨリ和修尊者ニ參ス十七ニ出家ス廿  
二ニ證果ス行化メ摩突羅國ニ至得度物甚多是ニ因魔宮震動ス波旬愁怖證果人ヲ得ル毎四指籌ヲ石室投彼石室ノ縱十  
八肘廣十二肘一肘ハ二尺也彼一生ノ間渡得籌以チ焚毘ス是ニ因チ得道ノ人多恰モ如來在世ノ如シ故世論授ニ無相好佛  
ト云波旬イキトヲリナスチ入定ノ時世節ウカ、イチ璽珞ヲ以項掛時尊者又彼ヲシチ伏ント發メ定ヨリ起チ狗蛇人三屍  
取化草縵ト作チ波旬シチ軟語ヲ以コシラエテ云汝吾ニ璽珞ヲ尙吾華縵ヲ汝ニ報答ント思フ彼句歡喜メ項ヲノヘテ受ク  
飯チ人狗蛇トナル波旬力ヲ盡不得捨ヲ終梵天ニ至ト云トモ梵天モ不能解脫告チ言佛弟子ノ作処我等力ヲ以非可解脫  
汝波旬啼哭メ曰ク何トメカ解脫ヲ得ン諸天說偈言若因地倒必因地ニ起離地ヲ求起無有是処还チ十力弟子ニ依チ解脫  
ヲ求ヘシ是因チ尊者ニ白ス尊者云吾解脫ヲ尙ニ彼句即云燒害ヲ不作願解脫セシメヨ云シカラハ尊者三飯ヲ授シニ自解  
脫シキ如是佛法ノ威驗ヲ施恰如來在世ノ如シ故十七歳落髮ノキサミ和修問曰身出家耶心出家耶ト夫佛家本ヨリ身心ノ  
二出家アリ所謂身出スト云ハ恩愛ヲ捨家郷ヲ離チ髮ヲ剃衣染好婢ヲタクワエス比丘ト作比丘尼ト作テ十二時中ニ辨道  
來故時トメ空過ヲ無メ願所ナシ故生モ不喜死モ不恐心如秋月皎潔眼如明鏡無翳心モ不求性モ不望聖諦猶不作況世執ヲ  
ヤ如是來凡夫地不留賢聖位モ不拘恰無心道人タリ是則身出家ノ人也心出家ト云所謂髮剃衣染スト云トモタトヒ在家ニ  
スミ塵勞ニ在ト云トモ蓮泥不染玉塵不愛受如タトヒ恩愛アリ妻子アリトモ芥ノ如塵ノ如覺チ一念モ愛心アルヘカラス  
一切貪着スルコトナカレ月ノ空裏ニ掛力如玉盤ノ上ニ走似鬧市中ニメ閑者ヲ見三界中ニメ劫外ヲ明メ煩惱ヲ断除ス  
ルモ病ナリト知り真如ニ趣向スルモ邪ナリト明ム涅槃生死是空花也菩提煩惱共ニ不管是即心出家人也故身出家耶心出  
家ト云問有然如是ナカラン出家ハ是出家ニ非故此問來然ニ惣多答云身出スト實ニ心ヲ不存性ヲ不存玄ヲ不談只四大五  
蘊ノ身正是出家スルヲ知り不メ運至得故如意足ヲ明不メ求得タリ故不可得ヲ明如是ナル故實身出家ト云然トモ諸妙  
法這ケ見解ヲ作ヘカラサル故和修指說スルニ云諸佛實是身ノ出家スルニ非ス心出家スルニ非ス四大五蘊ヲ以非可見理

差は差の誤り

スの下に器ニの  
二字を補うべき  
か

リはクの誤りか

。錯簡。然リト

云へ共我ト與ト

一般ニ非スト云

ヨリ結語ニ至テ

都テ十七行余ハ

第四祖ノ章ノ末

黒漆ノ如シト

云下ニ雜入ス

(松下本・東本

第五卷末)

ニハノの誤りか

。卑が早とかか

れていること以

下の章に極めて

多し。以下註記

省略

第五祖  
提多迦尊者

。蠹損により不  
明。長圓寺本に  
よつて補う。

輝は不要か  
理は現の誤りか  
家の下にスの一  
字補うべきか

性玄妙ヲ以非ス可證所以至凡共解脫身心同脫落來虚空ノ内外ナキカ如海水表裡ナキ似タリ縦幾回妙理無量法門千差

萬別ナリト云トモ唯這事ヲノミ說來ル然ハ唯我独尊ヲ佛ト云ヘカラス無來無去ト云ヘカラス誰父母未生前トモ云誰空

劫那畔トモ云ン此処ニ至チ生不生ヲ超越シ心不心ヲ解脫ス隨水ノ如ク物ニ依空ノ如シ取トモ取トモ手ニ滿コト無ク探

トモ跡無得フ即是諸佛ノ妙法也此処至邇多存事ナリ和修モ起フ無キ故動靜ヲ以セス去來ヲ以セス縦是非アリ彼我アリ

トモ水ノ底ノ如声如空ノ中ノ如ク端似然一度覺觸セサレハ千万法門無辺ノ妙理モ徒業識流注トナル如是指說処邇多尊

者忽大悟ス恰青天忽雷霹靂セシカ如大地ニ猛火發生スルニ似タリ迅雷一度震和修邇多耳根ヲ断ノミニ非速命根喪猛火

忽燒チ諸佛ノ法門祖師ノ頂顛悉灰燼シト作了又恁广ノ灰燼露邇多尊者ト号黒漆ノ如シ然云トモ我ト一般ニ非兩般ニ非

正汝等ノ皮肉骨髓悉也屋裡主人翁是我也皮肉骨髓ヲ帶セス四大五蘊帶セス畢竟メ云庵中不死人ヲ知ント思ハ豈今ノ

這皮袋ヲ離ンヤ然大地有情ノ會ヲ作ヘカラス春秋冬夏ニ轉變來チ山河大地時共トニ異ナリト云トモ知ヘシ是瞿曇老漢

ノ揚眉瞬目ナル故萬像之中独露身ナリヤ撥万像也ヤ不撥万像ナリヤ法眼云何ノ撥不撥ヲカ說ニ又地藏ノ云何ヲ呼万像

トスル然ハ横三豎四七通八達メ正瞿曇悟処ヲ明メ自己ノ成道會ヘシ恁广ノ公案子細ニ見得シ一トニ胸襟ヨリ流出メ前

佛及今時人ノ語句ヲ不借ツキノ請益ノ日ヲ以下語說道理スヘシ山僧又此一則下着ンコヲ早語思諸人要聞广

一枝秀出老梅樹荆棘局時築着來

第五祖提多迦尊者ノ曰出家無我我故即是不生滅也心不生滅即是常道ナリ諸佛又常ナリ心無形相邇多ノ曰ク汝是大悟也

師乃大悟ス師本香衆ト云師ノ父夢ニ金日屋ヨリ出ト見チ生ル是因改メチ提多迦ト云提多迦ハ梵語也此ニハ通神靈ト云

所謂ハ師ノ生ントセシ時父夢ミラク金日屋ヨリ出チ天地ニ照シ輝耀ス前一大山アリ山頂ニ泉湧ク傍陀トメ四方流邇多

尊者ニ參シ時始此事ヲ語邇多尊者說曰大山ト云ハ我身是也泉湧ト云ハ汝ニ智慧ヲ發スルナリ金日天地照耀スルト云ハ

汝智慧超越スルナリ時多提多迦說偈言巍々タル七宝ノ山ニ常智慧泉ヲ湧出ス皈真法味ト作能諸ノ有緣ヲ渡ン邇多忽說

偈言 吾法汝傳正ニ大智慧ヲ理ヘシ金日屋ヨリ出天地ニ照耀ス然ヨリ礼拜隨從終出家ヲ求邇多問曰汝出家ヲ志求ス身

出家耶心出家耶師云吾出家ヲ求ル身心ノタメニ非ス邇多云身心ノタメニ非ハ誰又出家ル師云吾出家ハ無我ト故即心不

ヲは下の我の字  
に續くべきか  
吾は五の誤り

是は時の下に續

くべきか

ヌはメカ

。レンの二字は

磨滅により不明

長圓寺本によつ

て補う。

葉は乗の誤り

エは不要か

シはンの誤り

リはクの誤り

葫は胡の誤り

手は種の誤り

散は敢の誤り

第六祖  
彌迦尊者

汨は似の誤りか

辜は辜か

ニはヲの誤りか

生滅也心不生滅常道也諸佛モ常也心形相ナシ邇多云汝是大悟也須能通達師聽チ即大悟ス實是出家ハ無我ヲ我露ス故身  
心メ以辨ヘキニ非此無我ヲ我即常道也生滅ヲ以量ヘキニ非故諸佛ニ非衆生ニ非四大吾蘊ナランヤ況三界六道ナランヤ  
故心ニ形相ナシ設見聞アリ覺智アリトモ終去來ニ非動靜ニ非如是見得スル即是心ヲ知得ル底漢猶是聞解ト可謂ツ故提  
多迦恁尸解スト云トモ邇多点メ云汝是大悟也ト恰資易物ニ皇帝印ヲ下ニ似リ玉印若題是時非毒ニ是疑非又是公物非故  
人使用シ來ル師資ノ道相契ト如是設理トメ通セスト云ト無道トメ明ヌスト云ト無ト云トモ須大悟メ始得ヘシ一度大悟  
セサレハ徒智解客ト作チ終心地ヲ通セス故佛見法見未免自縛他縛何ノ時カノカレン。然ハ設四十九年說一字不遺落三乘  
五葉一法モ錯謬セスト云トモ一度大悟セスハ真衲子ト許シカタシ然設千經万論ヲ講得佛ヲシチ影向セシメ大地ヲシチ  
震動セシメ天花ヲシチ乱墜セシムトモ早是座主ノ見解未本色ノ衲僧ニアラス然三界唯心ト會ヘカラス諸法實相ト會ヘ  
カラス悉有佛性ト會ヘカラス畢竟空寂會ヘカラス實相猶是節目ニ拘皆空却落空ニ同悉有又性灵ニ似タリ唯心未免覺知  
ヲ然ハ此事求ント思ン人千經万論ノ中求トアラエハ恨捨父逃逝ノ漢故一トニ自己宝藏ヲ打開メ一代藏教ヲ運出ン時正  
教自我有ナルヲ得ン若恁尸證得セサレハ佛祖悉是汝アタナリ故何ナル魔魅カ汝ヲシチ出家セシメ何ル魔魅汝ヲシチ  
行脚セシメシ道得タルモ杈下死道得セサルモ杈下死恁尸ナル故云也出家ハ身心ニ非ト如是解ト云トモ猶是本色衲子ア  
ラス再指出始大悟ニ通トヲ得タリ然諸人者子細弁道綿密工夫メ依文ニ解ト義ナリ覺ニ因チ灵ヲワキマウルヲナクメ軌  
坤大地凡聖依正ヲ大破壞メ前後往返スト云トモ一絲障礙ナリ上下ニ出入スト云トモ一塵隔歷ナクシチ更虛空窟窿ヲ得  
タリ平地波瀾ヲ起佛面祖面ヲ看得シ悟道明心ヲ識得葫芦藤手葫芦ヲマトヒ來一顆圓光珠玉ヲ廻來チ佛祖堂奥ノ事アル  
コヲ知得ヘシ適來因緣散チ早語ヲ付思要聞廣

得骨須知得処明 輪篇猶有不傳妙

第六祖彌迦尊者五祖因示曰佛言修仙ノ学小ハ汨繩辜挽汝可自知矣若棄小流ヲ頓ニ皈ル大海ニ當證ス無生ヲ師聞契悟  
師中印度人也八千仙人長者タリ一日衆ヲ將提多迦尊者ヲ瞻礼メ云吾昔師同梵天ニ生ル吾阿私陀仙人ニアウテ仙ノ法ヲ  
ウク師八十力ノ弟子ニ遇禪那ヲ修習ス是ヨリ報分シ道異ニメ已六劫ニ經タリ提多迦ノ云支離メ劫ヲ重ヌ實哉不空今汝

メは不要  
邪ヲ捨テ正ニ<sup>(ママ)</sup>皈<sup>(ママ)</sup>メ佛乘ニ入ヘシ弥遮迦ノ云吾師阿私陀吾ヲ記メ云汝劫後六劫同法ニ遇<sup>(ママ)</sup>チ無漏<sup>(ママ)</sup>果ヲ證<sup>(ママ)</sup>セント今已師ニ

相逢是宿縁ニ非スヤ願ハ和尚慈悲ヲ以我ヲ渡玉ヘ提多迦尊者出家受具<sup>(ママ)</sup>セシム仙衆悉皆憍慢也時ニ提多迦神通ヲ現ス仙衆悉菩提心ヲ發<sup>(ママ)</sup>チ同共出家ス故八千仙衆八千比丘ト作テ師ニ相隨出家セントセシキサミ師示云佛云仙ヲ修シ小ヲ學スルハ繩ヒキマトウニ似タリ汝自知スヘシ夫仙ヲ學シ壽命長遠ナルコトヲ得神通妙用ヲ得ト云トモ過去八万劫未來八万劫通理ス前後遠クカンカウルコトナシ統ニ非相非<sup>(ママ)</sup>相ヲ修メ無心想定ニ入ト云トモ悲シムラクハ。相非天ニ生シ長壽ノ天ト作<sup>(ママ)</sup>チ色界ヲ失コトハ得タリト云トモ猶是業識流注ノ分アリ佛ニ參スルコトモ得ス道ニ通スルコトモ得ス彼業識報尽ル時却無間獄ニ墮在ス故繩ノ引マトウニ似タリツイニ解脫ノ分ナシ小乗學者初果ヲ證<sup>(ママ)</sup>二果證<sup>(ママ)</sup>三果證<sup>(ママ)</sup>四果證<sup>(ママ)</sup>獨覺證<sup>(ママ)</sup>ト云云

云は不要  
トモ猶是身心中ノ修習迷悟中辨道也是因初果聖者八万劫ヲヘチ始初心ノ菩薩トナル二果聖者六万劫歷始初心菩薩トナル三果聖者四万劫歷始菩薩道入四果聖者二万劫ヘチ始初心菩薩トナル獨覺聖靈者十千劫ヘチ菩薩道入善因終歸ト云ト

モ恨是因<sup>(ママ)</sup>チ輪轉ノ業ナヲタエス又是繩牽挽スルニ似ク本解脫ノ人非實ニ夫八十八支見思塵沙無明惑破メ纖塵留ヘキナク一毫或ナシト云トモ徒有為功業トメ終無漏佛果ニアラス然ニ本ニカエリ源ニ皈ル修習待悟為則ノ辨道悉皆是ニ類ス故諸人者無ヲモ要スルコトナカレ恐クハ落空亡ノ外道ニ同ツヘシ空劫威音ニ留ルヘカラス亦是魂不散ノ死人ニ似リ妄法ノ空花ヲ止<sup>(ママ)</sup>チ真實ノ本性ニ達セント思フナカレ却是斷無明證中道ヲ聖者ニ類ス雲ナキ処ニ雲起玳ナキ処ニ玳ヲ生ス恰

伶俚他國ノ窮子ナルヘシ無明迷醉貧客ナリ思ヘシ汝是誰人ナレハ生前ト說死後ト說ン更何過未分ヲカ存ン曠劫以來片時モ相錯時ナシ從生死老只是愆<sup>(ママ)</sup>也雖然一度築着セサレハ徒<sup>(ママ)</sup>眼境迷惑メ自己不知者ナルヘシ目前ヲウトクスルナリ故身心ノ生起ル処ヲモ不知万法ノ流出スル処モワキマエス故ナク拂ハン思故ナリ求ント願如是ル故佛ヲメ煩ク出世セシメ祖師ヲメ子ンコロニ垂戒セシメ愆<sup>(ママ)</sup>ニ垂戒メ手垂ト云トモ猶自己ノ知見迷惑セラレチ惑不知ト說惑不分說真ケ無明ナルニモ非親切幽蓋スルニ非徒思量計較ノ中ニ在<sup>(ママ)</sup>チ正邪見別シ來不スヤ知汝等諸人呼ニ隨<sup>(ママ)</sup>チ應シ指隨<sup>(ママ)</sup>チイタム是擬

慮ヨリ生ルニ非覺知リ起ルニ非正ク是汝主人公也彼主人公面目ナク躰相ナシ然トモ動着メ止時ナシ是ニ因此心生來是名身トス此身露シヨリメ四大五蘊八万四千毛孔三百六十骨頭合成メ汝等一身タリ玉ノ光アルニ似リ声ノ響ヲ帶スルカ

戒は誠の誤り  
ムはルの誤りか

識は不要  
徒の下にニの  
一字を補うべき  
ノの下は期の一  
字脱落か

第七祖  
婆須密多尊者

入の下に吾器の  
二字を補うべき  
。蠹損により不  
明  
牡は北の誤りか  
蝶は蝶の誤り  
ハクは了か

ハはルの誤りか

如故生来死去一時カケタル処ナク一時モアマレル処ナシ憊广生滅生スレトモ生ノ始ナク死スレトモ死スルアトナシ恰  
海中波浪起跡ナキカ如又波浪不消ルカ如去リ去トモ曾別処ニ不行如海ノ尋常消息トメ大波小波起リ起チ不消汝等心モ  
又如動着メ止時ナシ故皮肉骨髓顯来四大五蘊ト使シ来故柳花翠竹顯来故得道明心ト證来声色品分レ見聞道異ナリ着  
衣喫飯ト受用言語事業識ト運用ス分ケ分レトモ差別ノ法ニ非顯レ顯レトモ牀相ニ不留恰幻人ノ諸幻術ヲ作カ如夢中ニ  
諸形像ヲ出生スルカ如鏡中萬像千變万化ト云トモ只這一面ノ鏡也若如不レハ知徒仙ヲ学シ小ヲ学来解脱ノナシ諸人悉  
是縛スル者ナシ何新ニ脱ルアラン迷悟本ヨリナク縛脱先ヨリ離は無生ナルニ非スヤ是大海ナルニ非スヤ小流何処アル  
塵刹微塵刹悉皆法海界也溪水瀑漲江河施流スル皆是海上ノ潑轉ナル然捨ヘキ小流ナク取ヘキ大海ナシ憊广故節目自除  
ク旧見一度改テ仙ヲ捨出家是則宿緣契發スル也然諸人憊广参来参去心語即通ス實是親友与相見シ自己ト自己ト點頭シ  
来共性海ノ中ニ游泳メ片時モ隔歷スルヲナシ實ニ憊广ニ感發セハ即是宿緣顯ヘキ也見スヤ馬大師云一切衆生無量却ヨ  
リ以来法性三昧ヲ不出常ニ法性三昧ノ中ニ在六根運用シ一切施為ス是法性也如是云ヲ聞法性中ニ衆生アリト不可會衆  
生ト衆生云水与水云ンカ如故言ニヨチ水ト説波ト説豈多種アラシヤ今朝又因緣ヲ説破スルニ更早頌アリ大衆要聞广

人家多是要清白掃去掃来心未空

第七祖婆須密多尊者置酒器ヲ弥遮迦尊者ノ前ニ作礼側立ス尊者問曰為セン是我入為是汝器師思惟尊者云為是我器  
者汝之本有性ナリ若復汝器ヲハ我法汝受ヘシ師聞大悟無生本性師者幾ハカリノ人ト不知常ニ着シ淨衣ヲ手持酒器ヲ  
リヨ里遊行メ或吟或嘯人是ヲ狂人ト云姓名ヲ不顯然弥遮迦尊者牡印度ニ至ニ正雉蝶ノ間ヲ見ニ金色祥雲アリチ立尊者  
徒衆謂云是人氣也必吾嗣タラン言未ルニハク師即至乃問云吾手中ナル物知レリヤ尊者云是觸器也淨者ニハ負ヘシ師乃  
酒器ヲ尊者前ニヨク尊者問曰是吾器ナリトヤセン是汝器ナリトヤセン師側立思惟ス乃尊者示曰若是我器ナラハ汝本有  
性也若又汝器ナラハ汝吾法ヲ受ヘシ師乃大悟時ニ酒器忽然メ不見尊者云汝ニ問試ニ姓名ヲ稱来吾本因ヲ示サン師説  
偈曰吾無量劫ヨリ此國ニ生ハ生ニ至マチ本姓ハ波羅墮名ハ婆須密時ニ尊者示云吾師提多迦トカク昔佛北印度ニ至時  
阿難ニ告云吾滅度三百年ニ此土聖人アリチ出世シ禪祖第七ニ當ン姓ハ婆須密波羅墮名婆須密多師聞云吾過去久遠

行は祖の誤りか  
來は未の誤り

その下云の一字  
脱落か

マは不要

第八祖  
佛陀難提尊者

議は義か  
論は不要  
辨は辯か

道は通の誤りか  
真心也は真也心  
の誤りか

劫ヲ思ヘハ曾檀那トメ如来一宝座ヲ奉ル佛記メ云賢劫釈迦牟尼佛ノ法中ニメ聖位ヲ尽ヘシ是因終第七ノ行ナル師來シ  
ニ至尊者ノ処ニ十二時中酒器持捨ヲナシ實是表準ナリ此器朝モ要夕モ要ス受用無導ナリ實是其器タルヲ表ス是ニ因  
チ參學ノ最初ニ問曰吾手中ナル物ヲ知ヤ否設心是道ト會シ身是佛ナリト明トモ猶是觸器ナルカ故若觸器ナラハ必淨者  
ニハ負ヘシ古今ニ亘トモ會セヨ本来具足トモ知レ皆是觸器也何ノ古トカ說ン何今トカ說ン何ヲ始トモ云何ヲ又本トモ  
如是諸見必淨者ニハ負ヘシ理ノ最タルヲ聞チ師乃酒器ヲ指置ク是乃尊者ニ歸セシ表準也故我器也トヤセン汝器也  
トヤセント問シ也既古今ノ論ニ非去來見ヲモ離ス此時ニ至マチ是吾也トヤセン是汝也トヤセン這吾ニモ非這汝ニモ非  
ト思惟セン処乃示云這吾器ナラハ汝本有ノ性也然是弥遮迦ノ器ニモ非若是汝器ナラハ吾法汝受ヘシ故波須密多ノ器ニ  
モ非吾汝器ニモ非故器モ又器ニ非ル故器乃カクレヌ實ニ一段始終ノ因緣今人ノ能知ヘキ処ニ非設參來參去チ諸佛祖尽  
力不道ノ所ニ至ト云トモ是觸器ナルヘシ必淨者ニハ負ヘシ夫真ケノ淨者ハ淨モ又不立故器モ又不立故師資ノ道相契  
通途無碍ナルカ故吾法汝受汝本有性也一法ノ陀ニ受ナク一法人授ナシ慙尸參徹スル時師トモ可謂資トモ云ヘシ故子  
即師頂ニ登師即子足ニ下ル此時兩物ナク分拆ナシ故器トモ稱シカタシ即器カクレシ此道ノ正ニ通セシ表準也今日モ若  
此田地ニ至得ハ是從來ノ身心ニ非故古今ニ亘トモ云カタシ何況生死去來ト稱スルコアラシヤ皮肉骨髓ヲ存スルコアラ  
シヤ實是虚凝一片田地終表裡ナク内外ナシ今日又早語ヲ着適來因緣ヲ舉セント思大衆聞ヲ要广

霜曉鐘如隨扣響 斯中元不要空蓋

第八祖佛陀難提尊者值七祖曰今來与師論議スヤ尊者云汝論不論義ト即不論若擬論議終不義論師知チ尊者義勝コヲ悟無  
生理 師迦摩羅國人也姓者瞿曇氏也頂上ニ肉髻アリ辨說無碍也第七祖波須密多尊者廣ク佛事ヲ迦摩羅國ニ興シ時ニ師  
宝座ノ前ニ至自吾名ヲ佛陀難提ト云殊來師ト論議セント思時ニ尊者說云汝力論議ニ非義ハ乃論ニ非實夫真實ノ義ハ論  
ヘキニ非真實ノ論ハ又義ヲ帶セス故論アリ義アルハ是義ニ非論ニ非故云論議ヲ擬スルハ終義論ニ非終一法ノ義トスヘ  
キナク一法論トスヘキナシ然佛ニ二種言ナシ故佛語ヲ見佛身ヲ見也佛身ヲ見ハ佛舌ヲ證スルナリ然設心境不二ト說モ  
猶是真實論ニ非設變易セストモ猶是義ニ非故言ノ宣ヘキナシ理顯スヘキナシト云モ猶是義道スルニ非性ハ乃真心也乃

按は較か

惑は或か

洞宗は洞宗か

イサキの三字意  
味不明

サの下にリの一  
字を補うべきか

正也説又何論メ然光境共忘ス云モ猶是眞實論ニ非光境共不モ忘又是義非然ハ實ト説主ト説一ト説同ト説クカサ子  
チ是義論非爰ニ至文殊大士無言無説ト説シ是眞實宣シニ非維广大士摠坐默然セシ又是論ニ非然此処至チ文殊大士猶見  
錯リ維广猶云錯何況智惠第一舍利弗神通第一目犍連此義ヲ見未夢ニモ見恰生盲ノ物色ヲ不見如然佛言佛性声聞緣覺ノ  
夢ニモ未知処也十住ノ菩薩猶遠ク鶴ヲ見チ是水ナルカ是鶴ナルカト錯ル且計按思惟ノ良此レ這ノ鶴ナリト見ト云トモ  
猶是決定ナラス然十住菩薩猶性ヲ見ト明了ナラス然トモスコシキ如来所説ニ因チ自性有トヲ知チ歡喜メ云我無量劫生  
死間流轉メ此常住ナルヲワキマエサリシハ無我ノ為ニ惑乱セラレチ也然見聞ヲ絶シ身心忘シ迷悟ヲサケ染淨ヲ離  
タリト云トモ此義ヲ見ト夢ニモ又未得故空中ニ向チ求ト莫レ色中ニ於求莫レ何況佛ニ求祖ニ求メンヤ然諸人者曠大劫  
ヨリ以来今日至マチ幾回カ生死ヲ經歷幾回カ身心起滅来ル惑思ヘシ此生死去来ハ夢幻妄想也殊笑ヘシ此説話ハ抑生死  
去来スル者ノ有欤何ヲ眞實人牀ト云ンヤ何ヲ夢幻妄想也ト云ン故虚妄トモ會スヘカラス眞實トモ會スヘカラス若虚妄  
ト會シ眞實ト會ハ此処ニ至始終不是也故此一段ノ事子細須參徹メ始得謾リ空擬シ正擬メ以憑广処ト思トナカレ設平坦  
ノ水ノ如清潔清淨也ト明得チ虚空染淨ナキカ如也ト云トモ終未此処ヲ明得シ洞山和尚瀉山雲岩ニ參チ急万法ト同參シ  
全身説法ト云トモ猶是不是ナルコアリキ是因雲岩重イサメチ云此兼當ン子細ニスヘシ是因疑猶殘ト有チ且雲岩ヲ辞  
チ他処行シニ水ヲ渡時影見シニ速ニ此事ヲ得説偈言切忌隨他覓トヲ遶ト与我疎ナリ我今獨自往処ト得逢渠ニ今正是我  
ト今不是渠應須恁广會方得契トヲ如トニ如是解メ終雲岩嫡子トメ洞宗ノ根本タリ然全説法ヲ會スルノミニ非ス露柱灯  
籠塵ト余刹ト余法ト余三世一切説ヲ會トモ猶不至処アリチイサキ何況今人見中ニ會チ心是佛ト會身是佛ト會或佛道何  
ナルヘシトモ會セス只春ノ花開ヲ見秋葉散ヲ見法住法位思ヘリ是笑ニ堪タル物也佛法如是ナラハ何因釈迦出世シ達磨  
西來セン然ニ上釋尊ヨリ唐土以来祖師佛祖位中ニ別ナシ誰是大悟セサシ人コトニ依文ニ解メ義ヲ以チ義トシ論トセハ  
幾回祖佛カアラン故彼ヲナケスチ此処ニ參徹メ自佛祖ナルヲ得ン故祖師ノ道殊ニ大悟大徹セスハ其人ニ非故純清絶  
点ニモ不啻虚空明白ニモ不啻故船子和尙云藏身処沒蹤跡トトト處莫藏身吾藥山在四十九年只此事ヲ明得ト純清絶点是  
藏身処也光境共忘ト云猶是處藏身スルヲ莫ト云更古今ト説ヘキ処ナシ迷悟ト論ヘキヲナシ恁广參徹スル時十方壁落ナ

ク四面又門ナシ処ニ脱白露淨也故大須子細卒余ナルヲナカレ今朝此因縁ヲ説破セントスルニ早頌アリ聞ンヲ要广

善吉維摩談未到 目連鷲子見如盲

若人親欲會這意塩味何時不的當

第九祖  
伏駄密多尊者

陀は不要

せは不要

慮は慮か

ノはヲの誤りか

。重複か

ソはヲの誤り

第九祖伏駄密多尊者聞佛陀難提説汝言ハ与心親父母非可比汝行与道合諸佛心即是ナリ外ニ有作ノ佛ヲ求ハ与汝不相合欲識汝本心非合亦非離師乃大悟 師者提多迦國人也姓毘舍羅佛陀陀難提行化メ提多國毘舍羅力家ニ至ル家上ヨリ白光上リ上ルヲ見尊者徒衆ニ語云此正聖人アルヘシロニ言説ナキハ真乗ノ器也足地ヲ不踏觸穢ヲ知マクノミナリ即是吾嗣ナラン云了ニ長者出礼拜メ問曰尊者求処アルヤ尊者云吾侍者ヲ求長者云吾ニ有一子年既五十口未モノ云足未踏尊者云若實然實是吾弟子也如是云ヲ聞テ師即起礼拜メ問曰父母吾親ニ非誰是最親ナル者諸佛吾道ニ非誰最道ナルモノ尊者乃答云汝言ハ心ト親父母並ヘキニ非汝行道ト合諸佛又乃是也外ニ有作ノ佛ヲ求ハ汝ト相合せス汝本心ヲ知ト思ハ合ニ非又離ニ非時師聞テ乃行一七歩ス尊者云汝昔佛ニ遇チ悲願廣大ニメ父母愛情捨カタクヲ慮故モノ云ス不ナリ踏實父母吾レニ親ニ非ス諸佛是吾道ニ非故正ク親ヲ知思ハ父母ニ並ヘキニ非正ク道ナルヲ知ント思ハ諸佛ニマナフヘキニ非所以者何汝見聞終陀耳目ヲカラス汝手足陀動靜ヲ不用衆生恁广ナリ諸佛モ恁广ナリ渠ノシテ是ヲマナヒ是ヲマナヒ終ニ是親非豈道トスヘケンヤ恁广道理ヲ護持保任スル故口ニモノ云ス足ニ踏一ナシ良五十年経タリ實是大乗ノ器觸穢中ニ非サルマクノミ父母親非ト云即是汝言也是正汝心ト親諸佛吾道ニ非ト云テ足終不踏乃汝行也道ニ合ス然外有作佛ヲ求ル終是非行ニ是ニ因祖師門下不立文字直指單傳メ見性成佛シ將チ行ク故人ヲシテ直至ナルヲ知メントノ單傳セシムルニ佗榜樣ナシ只人ヲシテ直ニ意根下ヲ坐斷メ口辺ニ白醖生セシメテユク是言ヲイムニ非默ヲヨミスルニ非汝力心恁广ナルヲ知ラシメントナリ清水ノ如ク空キソラノ如シ純白清潔ニメ和融無碍ナリ故自心ノ外ニ顯ル一物ナク已灵上纖塵ノ遮ルナシ全躰堂ニメ珠玉例セス日月光明ソ以自己光明ニ比スルヲ莫火珠ノ光明ヲ以自己ノ眼睛ニ比スルヲ莫レ不見道ヲ人々一段光明とルヲ千日并照カ如シクラキモノハ外ニ向求明者ハ内ニ向存セス閑思ヘシ内ヲ以親トスルヲ莫レ外ヲ以ウトキトスルヲ莫レ古往今来如是ナリト云トモ自倒自起シ来ヲ莫レ故祖師親切相見只恁广相逢チ

話は活の誤りか  
振は總か

。錯簡。釋迦ノ  
章三葉上面瞿曇  
ノ諸人ト共ニ成  
道スルカト云ヨ  
リ同四葉ノ上面  
一隻眼ヲ具スト  
云ニ至テ十一行  
余第九祖ノ章末  
此因緣ヲ指說セ  
ントスルニ卑語  
有リ大衆ト云下  
ニ難入ス(松下  
本・東本第五卷  
末)

也ハヤの意。以  
下註記省略。

第十祖  
協尊者

篤は携の意

クはタの誤りか

禪は祥か

更ニ多子ナシ適來因緣ヲ以明ツヘシ必モ修證ニ因至ルヘシト云ス參學ニ因キハムト云ス只乃汝心全汝ト親汝正是道ナ  
リト云此外ニ有相ノ佛モ求ス無相佛求ス實知ヌ汝誰合セン誰トカ離ナラン故合ニ非離ニ非ト云設是身ト說モ是離ニ非  
設是心ト說モ又是合ニ非恁广田地ニ至ト云トモ身ノ外ニ心ヲ求ルコト莫設生死去來スレトモ身心ノ作ニ非諸佛モ恁广ニ  
保任メ三世ニ常證諸祖モ恁广保任メ三國ニ顯來諸人者恁广保任メ更分外トスルコト莫レ十二時中終未相錯コナシ十二  
因緣却這轉法輪ナリ這田地ニ至時五道輪轉自ラ大乘翻軸ナリ四生受業正是自己話計設情ト說非情ト說トモ恰モ眼目ノ  
異名ナリ設佛ト云衆生ト云トモ心意ノ別稱也意ヲ勝レタリトメ心ヲ劣ナリトスルコト莫豈眼ヲイヤシミチ目ヲ貴トセン  
ヤ這ケ田地終根塵境界ナク心法ノ所見ナシ故ニ人々悉道也事々振チ心ナラサルコナシ今朝又此因緣指說セントスルニ  
早語アリ大衆瞿曇ノ諸人ト共成道スルカ諸人瞿曇ト共成道スルカ若諸人ノ瞿曇ト共ニナク瞿曇ノ諸人ト共成道スル云  
ハ全是瞿曇ノ成道ニ非因成道底道理トスヘカラス成道ノ理親切會ント思ハ瞿曇諸人一時ニ拂却メ早我ナルコトヲ知ヘ  
シ我ノ与ナル大地有情也与ノ我ナル是瞿曇老漢ニ非子細ニ驗点シ子細ニ商量メ我ヲ明メ与ヲ知ヘシ設我ヲ明タリト云  
トモ与ヲ明メスンハ又一隻眼ヲ具ス聞ン事ヲ要也

莫言語默涉離微ニ豈ニ有ヤ根塵ノ染自性ヲ

第十祖協尊者執侍伏駄密多尊者右三年未睡眠尊者中夜誦修多羅及演無生師聞悟道ス師中印度人也本ハ難生ト号ス師

孕時始父母夢ニミラク一白象アリ背ニ宝座ヲ負ヲウ座ノ上ニ明珠アリ光ヲ放ツ見孕コ有胎中ニ在六十年ヲ經ニ因

難生ト云仙人見相メ云此兒凡ニ非必聖者タルヘシト生チヨリ後八十年ニメ其父携持密多尊者ノ前ニ至既出家セシム処

胎六十年後八十年都一百四十年也シニ始發心ス老耄セルコト至老耄セリ是因發心セントセシ時人皆イサメチ汝既老耄ス

徒清流ニ蹤メ是何ニカセン出家ニ二種アリ一ニハ習禪二ニハ誦經汝クニヘキニ非師世人ノソシリ聞自誓云我出家メ若

三藏ヲ學通シ三明ヲ得コナクハ誓脇ヲ席ニ付シト如是誓テ晝參學誦經シ夜ハ安禪シ思惟メ終睡眠セス初出家セントセ

シ時禪光座ヲ照シキ舍利三七粒現前スルコトアリキ是ヨリ精進ツカレヲワスル、コト三年終三藏ヲ學通三明智ヲ開一日

尊者誦修多羅ヲ宣無生ヲ時師聞悟道シ終第十祖ニ列ス知ヘシ佛祖功業トメ如是精進ツカレヲワスレチ參學誦經安禪思

如は不要  
無の下に生の一  
字脱落か

尽の下にサスの  
二字脱落か  
通は通セスの  
意か

又はヌか  
實は實か  
問は問か

ニは不要

通は道の誤り

通は道の誤り

人は今の誤り

慮は慮か

カは不要

第十祖章末の偈  
の後に、四行の  
空白箇所があつ  
て表丁からあら  
ためて第十一祖  
章がはじまる

第十一祖  
富那夜奢尊者

惟ス如祖師モ又尋常ニ修多羅ヲ誦シ及無ヲ演是修多羅ト云ハ正ク真大乘經也同佛說ナリト云トモ大乘經ニアラサレハ  
誦ルヲナシ了義經ニアラサレハ依ヲナシ這大乘經ト云纖塵ヲ拂ト不說妄想ヲ不見云ス了義經ト云ハ必理ヲ尽シ妙ヲ  
尽スノミ非乃其事ヲ尽来ル所謂事ヲ尽ト云諸佛ノ發心ヨリ菩提涅槃ニ至ル三乘五乘ヲ說来ヲ劫国名号皆以尽ト云ヲナ  
シ是ヲ了義トス然佛經ハ如是ト知ヘシ設一句ヲ道得シ一理ヲ通得ト云トモ一生參學事竟セスンハ乃是佛祖ト許カタシ  
然ハ必精進ツカレヲワスレテ發心群ヲ又ケ修行倫ヲ絶メ子細參到シ委悉ニ究辨メ夜ヲ以日ニ次志ヲ立チ力ヲ起佛祖出  
世ノ本懷自己保任旨趣悉明辨メ一生問ヲイチ理トメ通スト云ヲナシ事トシチ尽サスト云ヲナクメ乃這佛祖ナルヘシ近  
来祖師ノ道スタレ參學ノ實処ナキニ因テ終一言ヲ通シ一理ニ通ニスルヲ以タヌト思ヘリ恐是増上慢ノ類ナルヘシ大  
恐ヘシ知スヤ云ヲ通ハ山ノ如登ハ益高シ惠海ノ如入ル益深クニ入底ヲキワメ高ニ登チ頂ヲキハメチ始真佛子タラン  
身心徒放捨スルヲ莫レ人々悉通器也日々是好日也唯子細參与不參ヨツチ徹人未徹人アリ必モ人ヲエラフニ非時ヲエラ  
フニ非ルヲ人因緣ヲ以知ヌヘシ既百十餘老衰然トモ志無二ニ因チ精進疲ヲ忘シカハ終一生參學ヲワル實ニ憐ヘシ老骨  
ノ身トメ右侍ヲ三年終不睡眠ト云今人ハ殊ヲイチ懈ヲアリ查往古先聖ヲ思像寒苦ヲモ寒苦トセス睹熱ヲモ睹熱ト  
セスメ身命断ト思ヲナカレ心慮不ト及思ヲナカレ若能如是ナラハ乃稽古人ナルヘシ是乃有道ノ士ナルヘシ若稽古アリ  
道有ンカ如キ誰是佛祖ニ非ン既修多羅ヲ誦ト云夫修多羅ヲ誦ト必シモ口ニ誦シ手ニ取ヲ以轉經トノミスヘカラス子細  
ニ佛祖屋裏ニメ閑声色ノ中ニ工夫セス無明胎ノ中ニ行履セス処々ニ智慧發生シ時々ニ心地ヲ開明メ須修多羅ヲ誦ヘシ  
十二時中恁广行履シ来ニ曾依倚セサランカ如即無性本性ヲ躰達セサルナルヘシ不ヤ知生来トモ從來スル所ナク死去ト  
モ所ナシ當処出生隨處滅尽ス起滅時ト共ニヲコタラス故生是生ニ非死是死非然參學人トモ生死ヲ以心頭ニカクル  
ヲナカカレ見聞以自ヲ隔ルヲナカレ設見聞トナリ声色トナルトモ自ノ光明藏也眼根ヲ離色相莊嚴ヲ成来ル耳根ヨリ光  
明放音響ノ佛事ヲ聞得リ手裏ニ光明ヲ放進歩退歩今日又恁广ノ道理ヲ指說ンタメニ早語付ント思聞ン事ヲ要也

轉来轉去幾經卷ノ死此ニ生彼ニ章句區

第十一祖富那夜奢尊者合掌メ脇尊者ノ前ニ立尊者問汝何リカ来師云我心行非尊者云汝何処住師云我心留ニ非尊者云汝

代は氏の誤り  
スハハの誤りか  
氏は子の誤りか

渡は度の誤りか

子は不了の誤り  
か

佛は不要か  
変は辨の誤りか

第十二祖  
馬鳴尊者

メはソの誤り

名は足の誤り

不定也ヤ師云諸佛又然リ尊者云汝非諸佛師此言聞三七日ヲ經修行シ無生法忍ヲ得尊者ニ申云諸佛又尊者ニ非尊者聽  
許正法ヲ付ス華代國テ一樹下居ス右手ヲ以指地ヲ云此地金色ニ變セス正ニ聖人有テ入會スヘシト云了ニ其地金色變時  
長者氏(ママ)富那夜奢ト云有テ來合掌前立尊者問汝何處住夜奢云我心止ニ非尊者云汝不安ナリヤ夜奢云諸佛亦然尊者云ク  
汝諸佛ニ非夜奢云諸佛又尊者ニ非時脇尊者偈ヲ說云此地金色變預メ聖ノ至有ヘシト知ヌ正ク菩提樹下ニ坐メ覺花而  
成シ竟ヘシト夜奢又說偈言師金色地ニ居メ常ニ眞實ノ義ヲ說光ヲ廻メ我ヲ照三夜摩提入シム尊者師ノ心ヲ知即渡出家  
セシメ戒法ヲ具シム適來因緣夜奢尊者元來是聖者也是因我心行非止非諸佛又然說然トモ猶是兩ケ見也所以者何我心モ  
又如諸佛モ如是ト會是因尊者耕夫ノ牛驅飢人食ヲ奪眞實得達人ハ猶這自救子(ママ)何況諸佛ヲ存スルコアラシ是因汝諸佛  
ニ非ト說此理性ヲ以テ知ヘキニ非相以ワキマウヘキニモ非故諸佛ノ智ヲ以モ知ヘキニ非自己識ヲ以計ヘキニ非所以此  
言聞ヨリ三七日間修習行道メサシク夏ナシ終一日覺觸メ正我心ヲ忘諸佛ヲ解脫は無生法忍ヲ悟ト云終此理ヲ通迦表  
ナク内外ナキニ因其得處說ニ云諸佛又尊者ニ非實是祖師ノ道理ヲ以通ヘキニ非心以辨ヘキニ非所以法身法性一心万法  
ヲ以究竟ニ非所以不變トモ說ヘカラス清淨トモ會ヘカラス何況空寂也ト會ンヤ至理也ト辨ンヤ故諸家ノ聖者悉此處ニ  
至初心ヲ廻再心地ヲ開明メ直入路ヲ通シ己見ヲ破ス今因緣ヲ以速知ヘシ既是聖者タルニ因來時地即變シ惠風物ヲ驚ス  
力アリ然トモ猶三七日ノ間修習メ此處ニ達ス故諸佛人者子細明變メ(ママ)統ニ小惠小智己見旧情ヲ以宗旨定ナカレ大須子細  
ニメ始得ヘシ今朝又此因緣ヲ會セントスルニカタシケナク早語ヲ以ス大衆聞ン夏ヲ要スヤ

我心非佛亦非汝 來往從來在此中

第十二祖馬鳴尊者夜奢ニ問云吾佛ヲ知ント思何物乃是尊者云汝佛ヲ知ント思不識者是也師云佛既不識ナラハ何クン  
是トモ知ンヤ尊者云既不識ナル佛也何クンノ不是トモ知ン師ハ波羅奈國人也名功勝有作無作ノ諸功惠ヲ以尤是殊勝  
故名トス即夜奢尊者處參メ最初ニ問云吾佛ヲ知ント思何物即是尊者云汝佛知ント思ハ不識者是實參學最初必尋ヘキ  
ハ是也三世諸佛數代祖師尽是學佛漢ト云若佛ヲ學セサレハ悉是外道ト名ク故音吉ヲ以求ヘキニ非色相ヲ以求見ヘキニ  
非故三十二相八十種好ヲ以佛トスルニ名ラス因佛ヲ知ント思何物即是ナルト問來乃示云你佛ヲ知ント思ハ不識ト云者

架は枷の誤り  
鎖は鎖の誤り

リはクの誤り

平は手か

平は手か

柱は柱の誤り

螺は裸の誤りか

捺は索か

不見は覓か

即是也所謂不識ト云者ハ正是馬鳴尊者也豈他ナランヤ未知時モ知レル時別ノ保任ナシ様子ナシ故昔ヨリ今ニ及只如是有時ハ三十二相ヲ帶八十種好ヲ具シ三頭八臂ヲ帶シ五衰八苦ニ沈有時披毛戴角シ有時鐵擔架(マヤ)鎖(マヤ)ス常三界中ニ居メ自己行履ヲ保任シ自心中頭出頭沒メ異面ヲ帶シ來ル故生シ來モ是何物ナリト不知死去モ是何物ナリト不知形ヲ付ントスレトモ是造作ヘキ法ニ非名安セン(マヤ)トスレトモ又是建立スヘキ妄ニ非故却ヨリ却至マテ曾知処ナリ我ニ隨我伴トモ都テワキマウルコナシ適來ノ因緣ヲ聞テ多解メ云何知妄有ハ即是佛ニタカハン知事ナリ分妄ナカラン正是ナルヘシト云今不識恁(マヤ)廣會セハ汝煩シク夜奢尊者恁(マヤ)廣ニ示ン冥ヨリ冥ニ入ルニ唯如是都恁(マヤ)廣ナラサル故直示云不識者是也ト馬鳴猶明ス只是從來ノ不知云ヲ以今ノ示處ヲ解ス故重テ示云佛既不識也何不是ト知ン佛其外ニ求ヘキニ非不知者即是佛也豈不是ト云ヘケンヤト示重示云這ケ鋸義師云這ケ木義師又問云鋸義トハ如何尊者云与你平出ス師云木義トハ如何尊者云你吾ニ解セラル師聞豁然トノ開悟ス實是汝モ如是吾モ如是八字打開兩手分付ス你モ我モ一点ヲ不受吾モ你小分ヲ不借(マヤ)是因平出セルコ宛鋸ノ如故云鋸義ト師解メ云吾是木ノ義ト所以者何黑漫(マヤ)メ都知処ナシ更一点ヲモ不着一知ヲモ不借宛木頭ノ如又露柱ノ如無心ニメ恁(マヤ)廣ナリ終辨別ナシト恁(マヤ)廣會スル故云彼是木ノ義ト然トモ恁(マヤ)廣所解餘習猶殘テ師ノ義ヲ不知故乃問云鋸ノ義トハ如何尊者慈悲落草シ授手分付メ云与你平出スト爰重自道取メ云木義トハ如何爰師資道通古今情破夢中ニ路作テ來空裏ニ運歩以行故云你我ニ解セラルト爰至テ無心凝潔速ニ解トケ明白窠窟モヌケ來豁然トメ開悟終第十二祖ニ列其此大士ハ昔毘舍離國ニメ王タリ一類ノ人アリ馬ノ如メ螺露也王神力ヲ以分身メカイコトナレリ彼即衣ヌキ後ニ彼王中印度ニ生テ馬人感戀メ悲鳴ス故呼馬鳴ト号ス即如來記ヲ殘ニ云吾滅後六百年後賢者馬鳴ト云アリテ波羅奈國ニメ異道摧伏廣人天ヲ度ン吾傳化今正此時ナリ云テ夜奢即如來正法眼藏ヲ付囑實是一段始終ノ處妄リニ不識不受ノ處トメ所ニ不識ナル所トスルコ莫レ即不識ナリトモ未胞胎處ニノ子終細見得シ子細思量ノ佛面祖面ヲ模捺スレトモ不得人面鬼畜求不見スレトモ不得是不變ナルニモ非是動着スルニモ非曾空ナルニモ非内外論ナク正偏隔ナシ正是自己本來ノ面目ナルコヲ覺知メ設凡聖含靈頭來依正二報ト別レ來トモ全此中ニ去來此中ニ起滅ス恰海水波ヲ起力如起レトモ曾一水モ不増又波ノ滅力如滅滅レトモ一滴モ不失曾人間ノ天上ノ中ニ暫諸佛ト呼ハレ來鬼畜トヨハレ來恰

分は凡の誤り

松は不要か

雪は雲の誤りか

第十三祖  
迦毘摩羅尊者

ヲはニの誤りか

虫は虫の誤り

ヌはスカ

魔は摩の誤り

焦は蟯か

冥は螟か

臣は巨の誤り

リはクの誤り

具は見の誤りか

厓は涯か

ヲは不要か

ヤは也の誤りか

ニは二の誤りか

一面上カリニ衆面ヲ現カ如シ是佛面トセンモ不是鬼面トセンモ不是然建化門頭事敲唱來當如幻三昧ヲ修習夢中ノ佛支  
ヲナシ來是因西天ノ化導幻術今不斷三國流傳メ轉分入聖來也能恁廣轉變修習メ正自己罪過ヲモウトクセス自己生死ニ  
モマトハサレス是真ケ本色衲僧ナルヘシ今日適來因緣舉揚スルニ例ニ因早語アリ聞ン事ヲ要スヤ

野村紅不桃花識 更教灵松雪到不疑

第十三祖迦毘摩羅尊者馬鳴尊者佛性海ヲ聞ニ云山河大地皆依建立三昧六通由茲發現師聞信悟ス師ハ華氏國人也諸ノ異  
道ヲ学テ馬鳴尊者華氏國ニノ法輪ヲ轉セシ時独老人アリテ座前地ニ臥ス馬鳴衆語云是庸流ニ非正異相アルヘシ即見エ  
ス又ニハカニ地ヨリ金色人涌出ス化ノ女人トナル右手ニ尊者ヲ指說偈言 稽首長老尊者當授如來記今猶此地上宣通第  
一義偈說了見エス尊者亦語云正魔來ルシルシナリ即空中ヲ指ニ大竜現威神ヲ憤發シ山岳ヲ震動尊者座ヲ儼然タリ魔事  
即滅七日ヲ經テ一小虫大サ蟯螟ノ如シ座下ニアリ尊者是ヲ取衆示云這ケ魔來レルナリヌミテ吾法ヲ聞是ヲ放チ去シ  
ムルニ魔去コヲ不得尊者示云你三寶ニ皈依スヘシ即神通ヲ得時ニ魔本形ニフクメ札ヲ作尊者聞云你名誰ソヤ答云吾是  
迦毘魔羅ト名尊者云徒衆幾カアル師云吾三千徒衆アリ尊者云你神力ヲ現變化スルコ幾ソ吾巨奇ヲ變スルキワメテ小シ  
ト時ニ馬鳴尊者云性奇ヲ化スヤ師云何物ヲカ性海ト云未曾知尊者性奇ヲ說ニ云山河大地皆依メ建立ス三昧六通是ヨリ  
發現師聞テ信悟ス實老人地臥ヨリ焦冥虫ト作至マテ神力ヲ現實ニ無數也又言云臣奇ヲ變コキハメテチイサシ夫奇ヲ變  
メ山ト作シ山ヲ化海ト作神力ヲ現スルコ極チイサシト云トモ性奇未名ヲタニモ知ス何況化コアラシヤ然即山河大地何  
物變ト覺ニ馬鳴即說是即性奇變也シカノミナラス三昧六通是ヨリ變ス所謂三昧首楞嚴等無量三昧天眼天耳六通是レ始  
モキワナリ終モキワナリ前三と後三と即是ナリ正是山河大地ヲ建立ル時地水火風ト化山河草木トモ化ス所謂皮肉骨髓  
トモ變シ五軀身分トモ化シ來未一変一法トノ分外ヨリ來ス所以十二時中ニ空捨底工夫ナク無量生死徒ニ顚底相貌ナシ  
故眼ニ具コ極ナク耳ニ聞コ極ナシ恁廣見聞恐ハ佛智モ計コアラシ豈是性奇ノ化作ナランヤ故法と塵と都是厓畔ナキ  
法ナリ全是數量ニ不墮是即性海也故如是然ハ今身ヲ見ハ即是心ヲ見ナリ心ヲ知ハ是身ヲ證ルヤ全身心ニナシ性相何ソ  
分ン設今ノ異道ノ中ニ在テ神變ヲ現シ又是分外ニ非サレトモ自不知是性奇ナリト云コヲ是ニヨリテ自ラモ疑惑シ他モ

呌は必の意か

ハはルか  
ニはスの誤りか

欽は缺の誤り

第十四祖  
龍樹尊者

ウはヲか

大は太の誤り

元は衆の略字

疑来然モ其ノ諸有ヲ知レハ物未根本ニ達セル者ニ力ヲタクラフルニタヘス故魔力終尽神変シ難シ終已ヲ捨他ニ皈シ争  
ヲ休テ正ヲ顯ス然設山河大地ヲ會トモ徒声色ノ中ニ繫縛スルコト莫レ設自己本性ヲ明トモ又覺知一兩佛面祖面ナリ所謂  
墻壁瓦礫是也本性ハ又見聞覺知ニカカワラス動靜ニヨラス然海ヲ建立スルハ呌動搖去来終斷ヲナシ皮肉骨髓時ト共ニ  
顯シ来ル若根本ヲ論シカ如シハ見聞ト顯声色ト見レトモ他ノタメニスヘキナシ然空ヲ扣響ヲ作故衆喆ヲ現空ヲ作メ諸  
物ヲ顯故形貌區也故空ハ是形ナシト思ヘカラス空是声ナシト思ヘカラス更此處至子細參到スハ時は空トニヘキニ非是  
有トスヘキニ非故隱顯ノ法トスヘキニ非自他ノ身トスヘキニ非何レヲ呼ヒ他トモ何レヲ喚我トモ宛空裡ニ一物ナキ  
カ如大毒ニ諸水現スルニ似リ古今會變易セス去来豈別路アラシヤ故顯時モ一点ヲモ不添欽時モ一毫モ不失衆法ヲ合成  
メ此身トス一法ヲ泯絶メ更一心ト説故道ヲ明心證スルコト都分外ニ向莫求覓只自己本地風光ヲ現成シ來レル他是ヲ呼人  
面鬼畜トス所謂雪峯云若此事ヲ論レハ我這裏一面古鏡如胡来胡現漢来漢現全是如幻三昧故始モ極ナク終極ナシ故建立  
スル時モ皆依スハ顯時モ由ス茲所以自心ノ外ニ大地ニ寸土ヲ見コト莫レ性海ノ外ニ河水一滴ヲ付コト莫レ今朝又此困緣ヨ  
リチ早語付シト思聞カン支要也良久云 皓渺波濤縱滔天清淨毒水何曾變  
第十四祖龍樹尊者因十三祖竜王請ニ赴チ如意珠ヲ受師問云此珠世中至宝也是有相ナリヤ無相也ヤ祖云汝只有相無相ヲ  
ノミ知此珠有相ニ非無相ニ非コトヲ知ス又未此玉ノ玉ニ非コトヲ不知師聞深領ス  
師ハ西天竺國人也又龍勝名十三祖當時受度傳法ノ西印度ニ至リ彼ニ太子アリテ雲自在名尊者ノ名ヲアウイテ宮中ニ請  
ノ供養ス時尊者云如来ニ教アリ沙門國王大臣權勢家親近コナカレト時太子云是ヨリ北大山アリ彼山ニ石窟アリ師爰ニ  
禪寂スヘシヤ否尊者諾ス即行コト數里スルニ忽大蟒アリ尊者直進不顧蟒来テ師盤繞ス尊者進石窟ニ入ントスルニ独老  
人素服ニノ来合掌シ問訊ス尊者問云汝何處ニ止ル老人答云我昔比丘タリ多寂靜好テ山林ニ隱居新学比丘屢来請益スル  
ニ答ヘキニワツラウテ嗔恨ノ相至命終石室大蟒ノ身ヲ受此石窟住メ今既千歲今尊者ニ逢戒法聞得力設故来謝耳ノミ時  
尊者問云此山何人アツテカ居ル云是ヨリ北十里ヲ過一大樹アリ五百大龍ヲ蔭覆彼樹王名竜樹云尋常龍衆タメニ說法吾  
モ行聽法ス尊者徒元ヲ領メ彼ニ詣ス龍樹出テ向テ尊者ニ申云深山孤寂メ龍蟒ノ居處大聖至コト尊者何ソ神足ヲマクル祖

有の下に相の一字を補うべきか

韋は常の誤りか

螯は蠶か

ナリは不要か

顯スは顯ワサズの意

誤は設の誤り  
玉は王の誤り  
トは不要

若は恙か  
玉は王の誤り  
重は寶の誤りか  
ハはハの意か  
ヲはトの誤り

云吾至尊ニ非殊更爰來テ賢者ヲ訪竜樹默然思云性明道眼アリヤ又大聖不聖ヲ思ヘキヤ時竜樹吾禍ヲ悔チ礼謝出家ス五百竜衆具戒ヲ受然ヨリ尊者隨テ四年ヲ經ニ十三祖竜王請ニ赴シニ如意珠奉ル師問云此珠世中至寶日々有ナリヤ無相ナリヤ祖云汝只有相無相ヲノミ知テ此珠有相無相ニ非フヲ不知又即此玉ノ玉ニ非フヲ不知說ヲ聞テ明メテ終第十四祖列夫竜樹異道ヲ学神通ヲ具韋竜宮行七佛經書ヲ見ルニ其題目ヲ見即經ノ心ヲ知り尋常ニ五百龍ヲ化所謂難陀竜王跋難陀竜王等ハ皆是レ等覺ノ菩薩等也悉前佛付囑ヲ受諸經安置シ奉ル今大師釈尊ノ經教モ人天既ニ化緣尽シ時モ悉竜宮ニ納ヘシ如是大威神アリテ尋常大竜王ト問答往來スト云トモ猶是眞實ノ道人非唯是外道ヲ覺スルノミナリ一度十三祖歸世シヨリ以來正是大明眼ナリ然ヲ人々皆ヲモハク竜樹ハ唯是祖門ノ十四祖ナルノミニ非又是諸家祖師タル故眞言モ是以本祖トス天台是以根本トス陰陽モ螯養等モ是以根本トス是皆昔諸藝ヲ習シカトモ祖位ニ列テノ後捨ラレシ諸藝弟子ノ我モ竜樹即本祖ナリト云ナリ是即竜樹也ト思シヤ正邪ヲ混乱メ玉石ヲワキマエサル魔僮畜類也只竜樹ノ佛法迦那提婆ノミ即正傳ナリ餘ハ皆捨ラレシナリ諸宗ナリト今ノ因緣ヲ以テ知ヘキシ五百竜元ヲ接化スト云トモ猶迦毘摩羅尊者至ル時キ出向テ礼拜メ試尊者且隱密ノ正宗ヲ顯ス竜樹憶念メ云是眞乘ヲツケルハ大聖ナリヤト心中ニハカリ見ントス祖云汝吾大聖ヲ慮ルコト莫レ唯出家スヘシト云シカハ竜樹慚愧メ十三祖嗣來テ今ノ因緣ヲ以明ヘシト云此珠世中至寶ナリ此玉有相ナリヤ無相也ヤ實竜樹サキヨリ知レリ是有相也トヤセシ無相也トヤセシ頗有無所見ヲ動執スルナリ是ニ因テ示云實誤イ世間ノ玉ナリト云トモ眞實ヲ論ン時是有相無相只是玉也何況力士ノ額掛ル玉輪玉ノ髻ツ、ミシ玉竜王領玉醉人衣裡玉悉他所見ニ不涉有相無相ト相トモ辨シカタシ然トモ適來珠ハ悉世間ノ玉全是道中至寶ニ非何況此玉又玉ニ非フ知コト不能實精細ニスヘシ玄沙云全躰是玉誰ヲシテカ知ン又云尽十方世界是一顆明珠實是人天ノ所見ヲ以辨ヘキニ非然トモ設世間ノ玉全外ヨリ來ルニ非悉人々自心ヨリ發現來所以天帝釈ハ是ヲ如意珠寶トモ摩尼珠寶トモ受用シ來病有時トモ此珠ヲ置病即若憂有時此玉ヲ頂ケハ憂自除神變ヲ現スルコト此玉由ル輪玉七寶中ニ摩尼寶珠有一切珍重悉是ヨリ出生受用スルニ無量也如是人天果報ニ隨勝負アリ差別アリ人間如意珠ト八米粒ヲモ名ケタリ是玉寶トス是天上ノ玉ニ比スルニ造作建立トス然モ是喚チ玉トス又如來舍利佛法ノ滅時如意寶珠ト作一切ヲフラシ米粒ト作衆生ヲ助

モは毛の誤り  
采は寂の略字か  
井は林の誤り

シはスカ

靈は雲の誤りか

時の下にニの一  
字を補うべきか  
フはヒの誤りか  
クはリの誤り

圓は圓か  
肯は旨か  
却是脚の誤りか  
暑は煮の誤り  
ヨミの二字意味  
不明

第十五祖  
迦那提婆尊者

ヘシ設佛身ト現米粒ト現方法ト顯シ一顆ト顯トモ自心顯テ五尺身ト作三頭形ト作披<sup>(ママ)</sup>モ戴角形ト作森羅万像品ト作然  
即須ク彼心珠ヲ辨ヘシ昔比丘ノ如采<sup>(ママ)</sup>靜ヲ願山井ニ隱居スルヲ莫レ實是前來モ如是未得道ナル錯アリ近來如是猶諸人ト  
肩ヲ交エ如是參來參去スルヲ閑靜ナラサルカ故独山林ニ隱居メ靜ニ坐禪行道<sup>(ママ)</sup>シト如是云多山谷ニ隱居シ<sup>ミクリニ</sup>妄修練ル類  
多以邪路ニ赴テ來所以者何真實ヲ不知徒自己ヲサキトスル故ナリ又云大梅法常禪師モ鉄塔ヲ頂テ松煙中ニ坐瀉山大圓  
禪師モ虎狼ヲ友トシ靈霧ノ底修ス我等モ如是修習スヘシト實笑ヘシ古人悉得道メ正師ニ印記ヲ受且道業ヲ純熟セシメ  
ンタメニ<sup>(ママ)</sup>機緣ヲ待ツ程如是修セシナリ知ヘシ大梅ハ馬祖正印ヲ受瀉山百丈傳附ヲ得後也愚見ノ及処隱山羅山等古今何  
レモ未得道ノ前キニ独住セシ無キ淨ヲ一時フル<sup>(ママ)</sup>一名ヲ末代ニ留ル明眼得道真人也徒參ヘキヲ不參至ヘキヲ不至山谷  
ニ居メ猕猴如ナラン最是無道心甚シキ也若道眼清明ナラス自調修行スル者ハ声聞緣覺ト作空ク<sup>(ママ)</sup>坏種ノ者タラン所謂坏  
種ト云ハヤケタル種也佛種ヲ断ス然諸人者子細叢林修練チ長時ニ知識參尋メ大夏<sup>(ママ)</sup>盡ク明自己正明辨悉竟ク其後且根ヲ  
深シ<sup>止ナラ</sup>蕭固<sup>(ママ)</sup>セン<sup>(ママ)</sup>ヲハ曩祖付囑也ト云トモ殊此一門ノ中ニ永平開山獨住ヲ誠ラル是人ヲ邪路ニ不赴<sup>モ</sup>セシトナリ殊先  
師二代ノ示云我弟子ハ独住スヘカラス設得道セリトモ叢林ニ修練スヘシ況學輩ハ一向独住スヘカラス制ニ背カン者吾  
門葉ニ非ト又圓悟禪師ノ云古人得<sup>(ママ)</sup>肯後深山石室ニ折却<sup>(ママ)</sup>鐺兒ニ<sup>(ママ)</sup>暑飯喫テ人世ヲ忘シ塵寰ヲ謝ス今ハ然<sup>(ママ)</sup>夏ヲ不望又黃竜  
惠南云自ラ道ヲ守チ山林ニ在老カ、マランヨリ何衆ヲ叢林ニ引入ルニハ不如近代諸ノ大宗匠ノ皆独住ヲ不好ヨミ<sup>(ママ)</sup>況  
人ノ根器悉昔ノ人ヨリモ劣ナリ只叢林ニ在テ修練辨道スヘシ古人モ如是猶用心疎ナルニヨリテ妄寂靜ヲ好ミシカハ新  
學比丘來チ請益センニ可ヲ答不答<sup>(ママ)</sup>嗔<sup>(ママ)</sup>患ヲ發キ實知ヌ其身心未メ調知識ニ離閑居独住ン設<sup>ヒ</sup>竜樹ノ如ク設說法アリト云  
トモ只是業報類ナルヘシ諸人厚殖善根ナルニ因テ正ク如來正法ヲ聞<sup>(ママ)</sup>ヲ得所謂大臣不親近独住閑居不好樂唯道業ヲ  
精辨シ專ラ法<sup>(ママ)</sup>可<sup>(ママ)</sup>透達是正如來ノ真口訣也今日適來因緣拳揚スルニ即早語アリ聞ン夏ヲ要スヤ孤光<sup>(ママ)</sup>靈廓常ニ無味  
如意ト摩尼ト分照來

第十五祖迦那提婆尊者竜樹<sup>エツス</sup>調正門ニ列ントスル時龍樹侍者ヲ遣<sup>ツカワメ</sup>滿鉢水ヲ以座前置シム一ノ鉢ヲ以是ニ投進<sup>ナケチ</sup>忻然開  
悟師ハ南天竺<sup>(ママ)</sup>國人也姓毘舍羅本ハ福業ヲ好ミ兼辨論ヲ樂シム竜樹尊者得法行化メ南印度ニ至諸人悉云尊者ノ說ノ佛性

這何物也トカセ<sup>(ママ)</sup>誰は見タル者時龍樹示云汝佛性ヲ知ント思先須我慢ヲ除ヘシ諸人云佛性大ナリヤ小ナリヤ竜樹云佛性大ニ非小ニ非廣ニ非狹ニ非福ニ非報ニ非死ニ非生ニ非彼理勝タルヲ聞尽初心ヲ廻其ノ中大智惠迦那提婆即竜樹ニ見ユ其門ニ至ラントスルニ竜樹是智人ナリト知テ先侍者ヲシテ滿鉢水座前置シム師一ノ針ヲ以是ニ投ニ奉ル然ヨリ忻然<sup>(ママ)</sup>契會シ即半座ヲ分チテ居セシム宛灵山迦葉ノ如時竜樹座不起月輪相ヲ現シニ師語テ徒衆ニ云是師佛性ヲ現スルナリ心円月ノ相ヲ以諸佛鉢ヲ表ス說法其形ナク用辨声色ニ非如是ナル故師資分難命脉即通ス適來因緣是尋常非最初ニ道ニ合來竜樹モ一言ノ說ナク提婆モ一言問ナシ故師資存難ク賓主如何分シ是ニ因緣殊ニ迦那提婆宗風ヲ拳說メ終五<sup>(ママ)</sup>竺ノ間ハ提婆宗トイワレキ所謂銀碗ニ雪盛カ如明月ニ驚ヲ藏カ如シ如是故最初相見ノ時即滿鉢水ヲ以坐前置シム豈表

碗は盥の誤り

。缺字。長圓寺本によつて補う

以は通の下にあるべきか

胡は胡の誤り

手は種の誤り

子の下に細の一

字を補うべきか

果は果シテの意

か

陀ノタメニ固<sup>(ママ)</sup>金剛ニモスキタリ恁<sup>(ママ)</sup>針水豈是他物ニアランヤ即是汝等身心也吞尽時唯一針也吐却時ハ又是清水也故師資道通達全是自他ナシ故命脉即通メ正廓明ナル時十方ニ收ムヘキニ非宛<sup>(ママ)</sup>葫<sup>(ママ)</sup>芦<sup>(ママ)</sup>藤<sup>(ママ)</sup>手<sup>(ママ)</sup>葫<sup>(ママ)</sup>芦<sup>(ママ)</sup>ヲマトウカ如攀來攀去只是自心ナルノミナリ然諸人ハ清水ヲ知得タリトモ子覺觸底ニ針アルヲ明ムヘシ若錯テ服スルヲ有ハ果咽<sup>(ママ)</sup>喉ヲ破來ン雖然如是兩般會ヲ作ナカレ只須吞尽吐尽メ子細思量メ看設清白ニメ虛融ナリト覺トモ正是廓徹堅固ナルヲ有ン水火風ノ三災モ侵<sup>(ママ)</sup>ナク成住壞空四劫モ移無ン故這ケ因緣說破ントスルニ更<sup>(ママ)</sup>早語アリ大衆要聞<sup>(ママ)</sup>廣

### 一針釣尽滄溟水寧竜到处匹藏身

第十六祖  
羅睺羅多尊者

シはヒの誤りか

第十六祖羅睺羅多尊者迦那提婆執侍宿因聞感悟ス師ハ迦毘羅國人也所以宿因ト云ハ迦那提婆尊者受度行化メ迦毘羅國ニ至ル彼長者アリ梵魔淨惠ト云一日蘭ナル木ニ耳ヲ生クサシ<sup>(ママ)</sup>ノ如メ味甚美ナリ長者及第二子羅睺羅多是ヲ取食ス食シヲワレハ又長者<sup>(ママ)</sup>盡テハ又生ス自餘親屬者曾見<sup>(ママ)</sup>ヲ不得迦那提婆其宿因ヲ知テ殊更彼ノ家ニ至長者即ユエヲ問迦那

ナはメカ  
ナはテの誤りか  
シはセの誤りか

。缺字長圓寺本  
によつて補う

侍は侍の誤りか  
ラはエの誤りか

有は不の誤りか

自は不の誤りか  
スは不の誤りか  
。徒字よりモ字  
の廿六字は重複  
の剰字か  
故は放の誤りか

ノはトか

提婆云汝家昔曾一比丘ヲ供養シテ彼比丘道眼未明ナラスナ空信施得報スルニ木蘭トナシ即又問汝年幾ソヤ長者云吾年七十有九祖示云道入テ理ヲ通セサルハ身ヲカエナ信施ヲカヘス汝年八十一ニメ此木ニ耳ヲ不シ生長者弥歎伏ヲ加テ吾年衰老セリ師ニツカウルヲ不能吾次子ヲ捨師隨出家セシメン祖云此子昔如来記云第二五百年ニ當チ大教主トナラン即宿因ニ肯タメニ剃髮セシム第十六祖ニ列リ古今佛祖人無慚無愧ニメ徒清流ニマシハリ無智無分ニメ空信施ヲ受ヲイサムルニ多是因緣引來實此因可愧比丘トメ家モ捨道入ヌ居所モ是我地ニ非食法全是レ我物ニ非衣服モ全吾ワサニ非一滴水一莖草都是受用ヘキモノニ非所以者何汝諸人悉皆國土ニハラマル一天下滿土上悉是國王水土ニ非ト云フナシ然家ニ在ハ親ニ使エ國侍ハ君ニ仕ハ如是ナル時天地加護有テ自陰陽ノ惠ミヲ受然ナマシイニ佛法ヲ願ハント号メ使ヘキ親ニモ使エス仕ルヘキ君ニモ仕ラス何以父母生成恩モ報ン何以國王水土恩モ報ン道ニ入道眼ナカラン家國賊ト云ヘシ既棄恩入無為三界ヲ出ト云然出家ヨリ後父母ヲモ不礼國王ヲモ不礼拜既形佛子ニ借り身ヲ清流ニヤトス設妻子所施ヲ受ト云トモ全是世俗在テ受シニハ同クセス悉是信施ニアラサルナシ然古人云道眼未明一粒ヲモカミ破カタシ若道眼清明ナル時設虛空ヲ鉢ニシテ須弥ヲ飯トシテ日々夜々受來トモ是信施ニマクルニアラス然何況道眼ノ具足不具足ヲ有願妄リニ僧作來ハ人供養ヲ受來ラント思供養スクナケレハ徒人倫ニ望思ヘシ汝等家ヲ捨郷ヲ離シ時一粒ノタクワエナク一糸ヲモカケス孤露ニシテ遊行ス只道眼タメニ身ヲマカセ法タメニ命ヲ捨豈發心ノ初心徒名利ノタメ衣食タメニゼンヤ然人ト問ニ不及只自己ノ最初發心ヲカエリミテ自是處ヲカエリミス是處ヲカエリミヨ故云終ヲ慎ヲ始ノ如スルヲ難實初心ノ如センニ誰道人ニナラサラン是因緣僧トナリ比丘尼トナルト云トモ徒國賊トナルノミナリ何以昔比丘ハ道眼明ナラスト云トモ徒國賊トナルノミナリ何以昔比丘ハ道眼明ナラスト云トモ修行退轉ナキニ因是ヲ報ル故木蘭トモナレリ今比丘ノ如キンハ一生既終ン時閻老汝ヲ故ヲ不能今ノ粥飯ハ或鉄湯トナリ或鉄丸トナツテ是ヲ吞ン時身心紅爛シ以行コアラシ然雲峯悅禪師云莫道コ不道諸人者幸ニカタシケナク如来正法輪ニアエリ市中ニ虎ニ逢シヨリモ稀優曇一現ヨリモ稀ナルヘシ子細用心子細參學メ須道眼清白ナルヘシ不ヤ見今因緣ヲ有情ト云無情ト云依報ト分正報ト分ツコ莫レ正前生ノ比丘今日木蘭トナレリ木蘭ノ時モ吾是比丘ノナレリト不知比丘ノ時モ吾比丘万法ト顯ト不知然ハ今有情ヲ

ヲはニの誤りか  
已は己か

又はヌか

第十七祖  
僧伽難提尊者

ノは我の下につ  
くべきか  
難は固の意か  
師の下にトの一  
字を補うべきか

ヌはネの誤り  
何は河の誤り

諸は書の誤りか  
チは千か  
徒は不要か

真は不要  
身は不要

メスコシキ覚知アリ聊痛痒ヲワキマウト云トモ木菌ト異ヲナシ所以者何木菌ノ汝ヲ知サルコト豈は無明ニアラサランヤ  
汝カ木菌ヲ知サルコトヲ全以同シ是ニ因有情無情隔アリ依報正報シナアリ若自巳ヲ明シ時何カ無情云何カ有情云去来  
今ニ非根境識ニ非能断ナク所断ナシ自作ナク佗作ナシ大子細參徹メ身心脱落メ見ヘシ徒僧形トナルニホコリ妄リニ塵  
家ヲ出テシニ止コナカレ設水難ヲノカルト云トモ火難ニワツライ又ヘシ設塵勞ヲ破去トモ佛有又難免何況如是ナラサ  
ラン人ノ物ニ隨ヒ他ニ迷輕毛ノ如浮塵ニ同メ東西ニ馳走シ朝野ニ昇降メ實地ヲ不踏心實所ニ至サラン類只一生賺過ス  
ルノミニ非又累世ヲ空過シ將行ン不ヤ知昔ヨリ今ニ及マテ曾相錯ス曾隔コナケレトモ汝未知有コト故徒浮塵ト作ル今  
日若盡劫セスンハ何時ヲカ待ン適来ノ因緣ヲ演ニ早語アリ聞ン事ヲ要スヤ

惜哉道眼不清白惑自酬他報未休

第十七祖僧伽難提尊者因羅睺羅多示チ曰ク我既無ノ我故汝須ワカ我ヲ見ルヘシ汝既我ヲ師トスル故ワレ我ニアラサル  
我ト知ヌ師聞心意豁然即度脫ヲ求師ハ室羅筏城人也宝莊嚴王子也生ヨリモノ云常佛更ヲホム七歳メ世樂ヲイトウ即父  
母ニ申メ云稽首大慈悲父和南骨血母我今出家セント思幸願哀愍故父母難クトトム終日モノイワス父母即在家ヲ出家ニ  
許又因テ僧伽難提ト号沙門禪利多ト云命メ是師ス十九歳ヲツムニ常ニ自思テ云自王宮ニ在リ何ソ出家トセン一タ天光  
クタリ属メ一路ノ平坦ナルヲ見不覺漸行ニ十里計ヲ約メ大ナル岩窟アリ前ニ石窟アリ即中ニ燕寂ス父既子ヲ失テ禪利  
多ヲ擯メ國ヲ出其子ヲ尋ヌルニ尋ヌ得ス如是十歳經シニ羅睺羅多尊者室羅筏城ニ行彼ニ河アリ金水ト云其ノ水味甚タ  
美中ニ五佛影ヲ現尊者徒衆語云此ノ何ノ源ニ五百里ヲ過テ聖者僧伽難ト云アリ如来諸ス一チ年ヲヘテ聖位付ヘシ乃徒  
衆ヲ領メ流ヲサカツ上ルテ徒至僧伽難提安坐入定ス衆ト共是ヲウカ、ウコ三七日ヲヘテ定ヨリ出尊者云汝身定ナリヤ心  
定ナリヤ師云身心共定ナリ尊者云身心共定ナラハ何出入アラン實身心若定ナリト云ハ何ソ出入アラン若身心ニ向定ヲ  
修セハ是猶真真定ニ非若真定ニ非ハ即是出入アラン若出入アラハ是定ニ非ト云ヘシ定ノ処ニ向身心ヲ求コナカレ參禪  
ハ本ヨリ身心脱落ナリ何ヲ喚カ身身トシ何喚心セン師云出入アリト云トモ定相ヲ不失鐘ノ井ニ在カ如鐘聲常ニ寂ナリ  
尊者云若鐘井ニ在リ若鐘井ヲ出ハ鐘動靜ナシ何物出入ン其鐘ニ動靜ナク出処アリ入処ナラハ是真金ニ非然猶此道理通

ケの意味不明

フはソカ

着は義の誤りか  
義の下にトの一  
字を補うべきか

ノはトメの誤り  
か

存スハ存セスの  
意  
アは刀か

婆は姿の誤り

斬は漸の誤りか

セス師又云カ子動静<sup>(ママ)</sup>セスト云ハ何物カ出入ンカ子出スト云ハ金ハ動静ニ非カ子動静ナシ出入アリト云ハ猶是兩ケ見アリ故示云モシ是カ子井ニ在ハ出物即カ子ニ非若カ子井ヨリ出ハ有物ハ何物ソ外<sup>(ママ)</sup>ケ終放入セス内又放出セス出レハ出尽キ入レハ入り尽何ンフ井ニアリ又井ヲ出ン故ニ出ルハ是カ子ニアラス有物ハは何物ソト云ナヲ此理達師云カ子若井ヲ出ハ有物ハカ子ニ非若井ニ在出物物ニ非此言實<sup>(ママ)</sup>鐘性ヲ不知故尊者示云此義然ラス實定ニ在テ理ヲ通スルニ似ト云トモ師ナヲ物我ノ見アル故ニ云カノ着<sup>(ママ)</sup>非然モ此義着<sup>(ママ)</sup>ノ實ナシ輕毛ノ風ニ隨カ如真實ナラサル故尊者又示云此義又墮スヘシ師言ニヨテ云彼義成スルニ非尊者大慈大悲深キニ因重示云彼義成セスンハ我義<sup>(ママ)</sup>セント然トモ妄ニ無我ヲ解ル故即云吾義スト云トモ法ハ我ニアラサル故實法ト皆無我ナルヲ知ト云トモ猶是着實ヲ不知即云我無我ノ故ハ又何ナル義ヲカ成ント親汝ヲ知シラシメントノ示云我無我ノ故ニ汝カ義ヲ成スト實四大悉吾非五蘊本ヨリ有ニ非如は無我ナル處ニ我有ヲスコシキノ思量分別シワキマウル故ニ問云尊者誰ヲ師ノカ此無我ヲ得タル師資ノ道不妄ナルヲ知シメンタメニ即示云吾迦那提婆ヲ師トメ此無我ヲ證ト云ヲ聞師以偈贊云稽首提婆師而モ尊者ヲ出ス尊者無我故我尊者ヲ師トセン思即尊者ノ我既ニ無我故ナルカ汝須ク我トヲ見ヘシ汝既吾ヲ師トス故我ノ我ニ非ル我ヲ知實夫真實我ヲ見得スル人ハ自巳ナヲ存ス<sup>(ママ)</sup>豈万法ノ眼ニ遮ルヲ得ンヤ見聞覺知終ニ不分一事一法更分ナシ故聖凡隔ナク師資ノ道合此道理ヲ見得ル時節即佛祖ニ相見ストス故自巳ヲ以師トシ師ハ以自巳トスア斧斬トモ不開恁广道理豁然契カ故即度脫ヲ求尊者云汝心自在也分ナク<sup>(ママ)</sup>處ト非ト云テ出家セシム尊者即右手ヲ以金鉢ササク拳梵宮イタシテ此香飯取正大衆<sup>(ママ)</sup>ニ供セントス大衆忽ニ厭惡心ヲ生ス我トカニ非汝等自非也即僧伽難提ヲ請テ半座ヲ分同食セシム衆又イフカル尊者示云正汝食ヲ不得皆是ニ因故ナリ然ヘシ吾座ヲ分者ハ即過去婆羅樹王如來也物ヲ憐ンテ蹤ヲ下ス汝輩ハ又莊嚴劫中ニ既三界果<sup>(ママ)</sup>ニ至未證無漏ヲ時衆云吾師神力信スヘシ過去佛ハ密疑即師云世尊在日ニハ世界平正ニノ丘陵有ナシ江河溝洫水悉甘美也草木滋茂國土豐盈也八苦ナク十善行ス双樹示滅ヨリ八百余年世界丘墟樹木枯悴ス人至信ナク正念輕微ナリ真如信<sup>(ママ)</sup>セス只神力ヲ愛ス言了テ右手ヲ伸テ<sup>(ママ)</sup>斬地ニ入テ金剛輪際ニ至テ甘露水ヲ取琉璃器ヲ以會處ニ至大衆見伏悔過悲ヘシ如來在世ヨリ八百年ナヲ如是何況後<sup>(ママ)</sup>ト百歲ノ今纔ニ佛法名字ヲ聞トモ道理何ナルヘシトモワキマヘスイタレル信心ナキ故何ナルヘ

惑は不要か

レはシカ

車は東の誤りか

者は志の意か

未は來の誤り

若は着の誤り

第十八祖  
伽耶舍多尊者

リはクの誤り

來は未の誤り

キソト尋人ナシ聊其道理ヲ得<sup>(マ)</sup>アレトモ護持シ來<sup>(マ)</sup>ナシ設知識アリテ大慈大悲教誡ニ因聊覺知覺了アリト云トモ惑或  
懈怠ニヲカサレテ真實信解ナシ故真實道人ナケレハ真實發心スルモノナシ實末世澆運宿業ノ拙ニ因如是ノ時分ニアヘ  
リ愧悔餘アリ然諸人者正法像法ニ生ス師ト<sup>(マ)</sup>レテ以資トシテモ悲ムヘシト云トモ思ヘシ佛法車漸メ末法ニイリテ吾朝如  
來正法ヲ聞テ<sup>(マ)</sup>統ニ五六十年也<sup>(マ)</sup>是始也ト云ツヘシ佛法至處ニ<sup>(マ)</sup>奧セスト云<sup>(マ)</sup>ナシ汝等勇猛精進ノ者ヲ發シ吾我ヲ吾我ト  
セス真無我ヲ證シ速無心ナルヲ得テ身心ノ作ニ拘<sup>(マ)</sup>ナク迷悟情ニ封<sup>(マ)</sup>セラル、<sup>(マ)</sup>ナク生死窟ニ止ル<sup>(マ)</sup>ナク生佛ノワナ  
ニ結<sup>(マ)</sup>ヲセル<sup>(マ)</sup>ナク無量劫未<sup>(マ)</sup>盡未來際會變易セサル我アルヲ知ヘシ若語云

心機宛轉稱身相 我々幾分面目來

第十八祖伽耶舍多尊者執侍僧伽難提尊者ニ一時聞風吹殿銅鈴尊者問師云鈴鳴耶風鳴耶師云非風非鈴我心鳴也尊者  
曰復誰乎ヤ師云俱寂靜故尊者云善哉々々繼吾道ヲ者非子メ而誰即附法藏<sup>(マ)</sup>ヲ師ハ摩提國人也性鬱頭藍父ハ天蓋母方堊  
曾夢ミ<sup>(マ)</sup>ラリ大神鑑ミヲ持ト因孕<sup>(マ)</sup>有七日ニ<sup>(マ)</sup>生ル肌腠ミカケル琉璃ノ如來タ洗浴身腠皓潔也生ル時ヨリ圓鑑アリテ現  
尋常ニ此童子ニトモナウ彼童子常寂靜ヲ願都世緣不染所謂此圓鑑童子坐時ハ鏡面前ニ在リ古今ノ佛更都此鏡不ト浮云  
ナシ恰聖教ニ依テ古教照心スルヨリモ猶明鏡也童子若去時ハ此鏡ウシロニ隨圓光ノ如然童子形カクレス童子ト臥時  
ハ此鏡ユカノ上天蓋如ノ蓋エリ都行住坐臥此鏡相隨スト云<sup>(マ)</sup>ナシ然ニ僧伽難提尊者摩提國ニ遊ニ一日涼風アテ衆ニカ  
ル尋常ノ風ニ非衆心悅適ス時尊者衆ニ示云是ハ道德風也必聖人アテ吾聖位ヲ緒ヘシト即神力ヲ以大衆接メ山ニ登ニ  
一孤峯ノ上紫雲アテ蓋如ノ蓋即聖者爰アリテ知且徘徊スルニ一山舍ヨリ童子有テ出手ニ圓鑑ヲ持メ尊者問云汝力歲幾  
ソ童子云我歲百歲尊者云汝善機哉童子云若人生百歲ナレトモ諸佛ノ機ヲ會サランハ不如生一日ナリトモ能是決<sup>(マ)</sup>了セ  
ンニハト尊者問云汝手持セルハ是何ンソ童子云諸佛大圓鑑内外無瑕翳兩人同得見<sup>(マ)</sup>ヲ心眼皆相似父母此言ヲ聞既出家  
セシム即童子ヲ携テ本處ニ<sup>(マ)</sup>皈出家セシム号メ伽耶舍多ト云有時風殿ノ銅鈴ヲ吹ヲ聞ニ問云鈴鳴ヤ風鳴ヤ師云鈴鳴非風  
鳴非我心鳴也尊者云心亦誰ソヤ師云俱寂靜ノ故ニ尊者云善哉々々我道ヲ統ン者汝ニアラスンハ誰ヤ即法藏ヲ統終十八  
祖位ニ列彼圓鑑出家セシ時忽然トメ見エス實夫人と一段ノ光明今圓鑑内外ナキカ如シ悉皆相似彼童子生ヨリ此方常ニ

統は嗣の意か

報は執の誤りか

三十はミナノ誤  
り  
比は北の誤り

鳴は鈴の誤り

空は突の誤りか

請は語の誤り

佛事ヲホメ俗吏ニ不混明鑑對古今と佛吏ヲ看見ス其心眼皆相似知云トモ猶思諸佛機會セスト故百歲ト云設一日ナリト云トモ若諸佛ノ機ヲ會ンカ如ンハ只百歲ニ越ノミニ非無量生ニモ越ヘシ此故終圓鑑ヲ捨實ニ是諸佛一大吏因緣所謂不寬不可輒此因緣ニモ知ヘシ實諸佛大圓鑑ヲ解會ス殘処アルヘケンヤ然ナヲ是真實底ニ非更何ナル諸佛大圓鑑アルヘキ又如何兩人得見スヘキカ有ン又何内外ノ導翳ナキカ有ン何呼カ瑕翳トセン心眼トハ何ソ豈相似ヘケンヤ故円鑑失ス豈是童子ノ皮肉失スルニ非スヤ然設所見今如心弥相隔ス兩人同得見ト會ト云トモ眞ケ是兩人ノ所見アリ更眞自己ヲ明底ニハ非然汝諸人圓相所見ヲ作莫レ身ノ相ヲ作「莫大須子細ニ參徹メ急ニ依報正報一時破裂自己モ又不了ナル」ヲ得ヘシ若此田地不到只是業報衆生未諸佛機ヲ會セルニ非如是サン悔礼謝メ終出家受具後僧伽難提報侍メ年ヲ送有時風殿銅鈴ヲ吹ヲ聞ニ問云鈴鳴耶風鳴耶此因緣實子細スヘシ尊者終鈴ヲミス風ミスト云トモ更何吏ヲ知シメン故恁廣問來故云鈴鳴カ風鳴カト是何吏風鈴ヲ以解會スヘカラス是尋常風鈴ニ非即堂殿角ニ掛タル鈴ナリ鈴鐸ト云今ノ南都ノ堂内閣等ニ悉三十カケ來リ是以人家ト堂舍ト辨別ス比京ト成ヨリ始方堂舍ニ鈴鐸掛云トモ近代ハ土風スタレテ義ナシ然トモ西天ノ義モ如是此鈴鐸ヲ風ノ吹時此公案アリキ然師答云鈴鳴ニアラス風鳴ニアラス吾心鳴也ト實知ヌ都一塵辺表出來ナシ是因風吹ニ非鈴鳴ニ非又思鳴即鳴也ト恁廣所見モナヲ是心俱寂靜ニ非是因即云我心鳴也ト此因緣ヲキ、テ人ミナ邪見ス必ス風ノ鳴非唯心鳴ト覺云故伽耶舍多如是云ト云若天真天然トメ一切發セサラン時豈鈴鳴ニ非風鳴ニ非トモ云ヘケンヤ故云我心鳴ナリト伽耶舍多ヨリ六祖ニ至時代遙ニ隔レリ然トモ更隔テサル故ニ風幡動ニ非仁者心動也ト云今汝諸人モ其心地徹通時三世本ヨリ不隔證契古今連綿タリ何同異ヲ弁尋常所見ヲ弁スル「莫レ風鳴ニ非鳴カ鳴ニ非ヲ以始知ヘシ何吏ヲ知ント思ハ須我心鳴也ト鳴スカタハ山ノ空兀ト高海平沈ト深如草木森々タルモ人々眼目ノ分明ナルモ心ノナル質也然ハ声ノ鳴ト思ヘカラス声モ又心ノナル也四大五蘊一切方法都盧皆是心鳴也此心都不鳴時ナシ故終響ヲ不帶更又耳ヲ以聞カル、ニ非耳是ナルカ故云俱寂靜ト恁廣見得スル時都万法出頭処ナシ故山ノ形ナク海形ナク更一法形貌ヲ帶スルナシ宛夢ニ蘭舟ヲ浮滄溟ニ行力如竿ヲ舉テ波瀾ヲ分モ舟ヲ止テ水勢ヲ請スルモ浮ソラナク沈ソコナシ更何山ノ海ノ外立ヘキ有ン更ニ何ル自己ノ船中ニ游戲スルカ有ン故恁廣ノ指說眼アレトモ聞「ナク耳アレ

牙は互か

持受は受持の意  
か

トモ見ヲナシ故六根<sup>(マ)</sup>牙融トモ云ヘカラス都六根ノ帶ヘキナシ故俱寂靜也取ントスルニ六根ナク捨スルニ六境ナシ根塵共脫心境兩俱忘子細ニ見ハ脫ヘキ根塵ナク泯ヘキ心境ナシ眞ケ寂々ニメ同異ノ論ニ非内外ノ情非誠恁<sup>(マ)</sup>廣田地ニ至時即諸佛ノ法藏ヲ持受<sup>(マ)</sup>メ正佛祖位ニ排列ス若如是ナラスハ設万法不錯會トモナヲ是自己ヲ存シ他ヲ談メ終法々隔歷スト云若キヤク歷<sup>(マ)</sup>セハ何佛祖即通<sup>(マ)</sup>宛空裏ニ界牆ヲツクカ如空豈サエヘケンヤ自界障ヲ作スノミナリ若界畔一度破ル時何カ内外トセン<sup>(マ)</sup>爰ニ至釈迦老子モ始非汝諸人モ又終ニ非都諸佛面目也諸人ノ形貌ナシ如是ナル時宛清水波濤ヲ作力如ク佛祖出<sup>(マ)</sup>奥メ以行ク是増ニ非減ニ非ト云トモ水流浪激將テ行然ハ子細ニ參徹メ恁<sup>(マ)</sup>廣ノ田地至得ヘシ曠劫以來及未來永際且界畔ヲ作メ三世ヲ排列スト云トモ惣從劫至劫只如是這ケ明白本性會得<sup>(マ)</sup>ニ皮肉ヲ以ワツラヒ身動靜ヲ以ワキマエントス都此田地ニ身心ヲ以知ヘキニ非動靜ヲ以ワキマウヘキニ非子細參徹ノ自休自歇ノ自兼當メ始得ヘシ若恁<sup>(マ)</sup>廣ニ明スハ徒十二時中身心ヲ荷將來宛重擔ヲ肩ニ置カ如シ身心終ニ安カルヘカラス若身心ヲ放下メ心地空廓々地ニノ尤平生ナルヲ得<sup>(マ)</sup>雖然如是適來因緣心鳴処道得メ明不得諸佛出<sup>(マ)</sup>奥ヲモ不知衆生成道ヲモ不知故心鳴道得<sup>(マ)</sup>早語ヲ付ント思聞ンヲ要スヤ

寂寞<sup>(マ)</sup>心鳴響万様 僧伽耶及風鈴

第十九祖  
鳩摩羅多尊者

ンハノカ

受は愛の誤りか

第十九祖鳩摩羅多尊者因伽耶舍多尊者示云昔世尊記曰吾滅後一千年ニ有大士出現月氏國紹隆<sup>(マ)</sup>ン玄化ヲ今汝值吾應斯嘉運ナル師聞發宿命智ヲ師ハ月氏國人也姓婆羅門昔自在天ニ在テ欲界ノ六天ナリ有時菩薩瓔珞ヲ見<sup>(マ)</sup>受心ヲ奧<sup>(マ)</sup>是因落忉利天生欲界第二天ナリ即天帝釋ノ般若波羅蜜ヲ說聞梵天ニ生其心聰利ニメ諸天タメニ法要ヲ說故諸天是ヲ敬玄化ヲツクヘキ時至ヲ知月氏國ニ降生ス十八祖化度メ月氏國ニ至ニ独波羅門家上ヨリ異氣アリテ起ヲ見乃彼家行ニ師問云師ハ是何輩ソ尊者答云吾佛弟子也師ハ佛名ヲ聞身心ヲノ、ク即家ニ入門ヲ閉ツ尊者且アリテ門ヲ敲師内ニテ答云人ナシ尊ナシト答物誰ソ師尊者声ヲ聞ニ是異人ナリト知テ出近接ス時尊者世尊來記ヲ示ニ即宿命智ヲ發此因緣須子細スヘシ所謂名字道ヲ明若生死去來真實人跡ト明トモ自己本性ノ虛明靈廓ナルヲ明<sup>(マ)</sup>スンハ諸佛所證ヲ不知故菩薩故光ヲ見<sup>(マ)</sup>驚諸佛相好ヲ見<sup>(マ)</sup>受ヘシ所以者何貪瞋癡等ノ三毒未免サル故今師往因ヲ見愛ニヨリテ退墮メ忉利天下然宿習ヨリテ帝釋說

故は放か

受は愛の誤りか

命は今か

サイキリは遮キ  
ルの意か

第二十祖  
闇夜多尊者

或は惑か

倒は淵の誤りか  
中は印の上にあ  
るべきか

。不明。長圓寺  
本によつて補う

ケは個(此)の  
意か

テは不要

ヲはソの誤り

ユコンは勇健の  
意か

法ニ値テ梵天ニ登月氏國ニ下積功累惠空カラス終十八祖ニ値宿命智ヲ發所謂宿命智ト云尋常過去ヲ知未來ヲ知一是何  
ニカセ<sup>(ママ)</sup>ン只本来不變ノ自性<sup>(ママ)</sup>聖九ナク迷悟ナキヲ看得スレハ百千法門無量妙義惣心源ニ在故衆生顛倒モ諸佛成道モ自  
己方寸中ニ在全根塵ノ法非心境相ニ非爰至何クヲカ古トモ何クヲカ命ト<sup>(ママ)</sup>セン何レカ是諸佛何レカ是衆生一法眼ニサイ  
キリナク一塵ノ手ニ觸ナシ只虛明一片ニ廓落無際ナルノミナリ即久遠實成如來不昧本來衆生也如是來<sup>ヒ</sup>恁悟知時モ  
増<sup>(ママ)</sup>セス如是不知時モ滅<sup>(ママ)</sup>セス久遠劫來恁<sup>(ママ)</sup>廣ナリト覺觸スルヲ宿命智ヲ發ト云若此田地ニ至スンハ徒迷性情<sup>(ママ)</sup>ニミタサレ去  
來相移サレ終自己アルヲ不知本心錯サルヲ不明故諸佛ヲシテワツラワシク出世<sup>(ママ)</sup>セシメ祖師ヲシテ<sup>ハルカニ</sup>杏西來<sup>(ママ)</sup>セシメ  
出世本懷西來本意只此<sup>(ママ)</sup>更ニ非須低細用心メ<sup>(ママ)</sup>靈トメ不昧明トメ不藏事ヲ知ヘシ本來一段光明アル  
ヲ知ルヲ宿命智云也今日又早語アリ聊些<sup>(ママ)</sup>子理ヲ通<sup>(ママ)</sup>セント思大衆聞ン事ヲ要スヤ

推倒宿生隔塵身 而今相見旧時漢

第二十祖闇夜多尊者因十九祖示曰汝已雖信三<sup>(ママ)</sup>宝ヲ未明業ハ從惑生<sup>(ママ)</sup>或ハ因識ニ有アリ識ハ依不覺ニ不覺ハ依ヲ心ハ  
本清淨也汝若入此法門可與諸佛同矣一切善惡有為無為皆如夢幻ノ師聞發宿惠ヲ師ハ北天竺<sup>(ママ)</sup>國人也智惠倒<sup>(ママ)</sup>中ニノ化導  
無量ナリ當時印<sup>(ママ)</sup>中度ニノ十九祖值進テ即問云吾家父母本ヨリ三宝ヲ信ニ常ニ疾癰<sup>サイニ</sup>マツワル大凡營作スル処皆心不叶吾  
隣家ニ旃陀羅ノ行ヲナス者アリ身常勇健ノ所作和合スカレ何ノ幸カアル吾何罪アル尊者示曰汝何ソ疑ニタラン且善惡  
報三時アリ九人ハ只仁ナルモノ、天暴<sup>ヨウシ</sup>ナル者命長ク逆ナル者好ク義アル者惡キヲ以即因果ナシ罪福空シト思ヘリ影響  
相隨毫釐モ差フナシ設百千劫ヲ經モ因緣必相值闇夜多尊者頓所疑トケヌ時尊者重示云汝既雖信三宝ヲ未明業從惑生惑  
因識有識依不覺ト依心心ハ本ヨリ清淨ナリ生滅ナク造作ナク報應ナク勝負ナシ寂ト然リ靈ト然リ汝若此法門ニ入ハ  
諸佛ト同カルヘシ一切善惡有為無為皆夢幻ノ如師言クヲケ旨ヲ領メ即發宿惠ヲ上來因緣實學人トメ一トニ精細ニ見得  
スヘシ所謂最初思ワク常ニ三寶ヲ信ト云トモ猶疾癰ニマツワル大凡營作スル処ミテナ心ニカナワス隣家ノ旃陀羅惡行  
ヲ修ト云トモ身常勇健所作和合爰至思我佛法ニ歸依メ年久佛法ノ力ニ依ニ因テ其身常恙<sup>ソ、カ</sup>ナク其事心ニ肯ヘキニ悉心ニ  
カナワス身又病ニマツワル是何ノ罪ヲ旃陀羅本ヨリ惡事ヲ行ス都善種ヲ不修然殊ニ觸吉祥ニメ身ユコンナリ是何幸カ

縁は純か  
クはりか

輕ルの下にカラ  
の二字補うべき  
か

分の下に解の一  
字を補うべきか  
道の下に人の一  
字を補うべきか  
輕は轉か

ニはレの誤り  
アマサエはアマ  
ツサエの意か

状は然の誤り  
受は愛の誤り  
弥は源の誤り

盧は不要

滅は滅の誤り  
ヲはヨの誤り

故は旨の意か

有今人尽ク思へり出家ナリ此心アリ況在家ハ皆如是又云汝何疑ニ足ン且ク善惡報ニ三時有大凡人ノ仁アル人ノ中天アリ卒暴ナル者壽命長逆罪スル者吉祥ナリ義深者凶惡ナルヲ過去ヲモ明メス未來不會只眼前境ニマヨワサレテ即因果ナシ罪福空ト是即愚癡甚シキナリ學道ヲロカナルカ故ナリ如是一ニハ順現業今生善惡ノ業修スルニ即一生涯ノ中ニ報受是順現業名二順次生受業今生業修メ次生果報ヲ受五逆七遮等ハ必順次生ニ報受三順後業今生業因ヲ修メ次三生四生乃至無量生間業果ヲ受然過去ノ善業ニ因今生善ヲウクト云トモ或往業ニ因今果不同也所謂純善惡業因ノ者ハ今生縁善惡果感ス雜善惡業ノ者ハ雜善惡果ヲ受又佛法修行ノ力轉重受輕轉輕今ナカラシムナク所謂過去劫惡因未來重苦ヲ感得スヘキカ今生修行ノ力ニ因輕受ルコアリ或ハ病ニマトワサレ或事トメ心ニカナワス或言ヲ出ハ人ニ輕シメラル是悉未來ノ重苦ヲ今生ニ輕クウクナリ然佛法修行ノ力弥タノミ有ヘシ過去遠ニ修セシ報ハ只勇猛精進セハ悉皆輕ルシムヘシ然參學人トノ隨分脫道ナリト云トモ或惡名ヲウケ或營作心ニ契ワス身モ勇健ナラサルコアリ是即輕重受輕ヲ思テ人有テ憎惡ストモ曾恨コナカニ人有テ謗毀ストモ曾トカムルコナカレ彼謗人アマサエ敬礼スルコハアリトモ厭惡スルコ莫道業日と增長シ宿業時と消滅ス狀須子細參得修行スヘシ汝既三寶ヲ信ト云トモ未知業根本ヲ業ト云ハ善惡ノ報ワカレ凡聖ノ品異ナリ三界六道四生九有并ニ業報也此業ハ迷ヨリ發夫迷ト云ハ憎受スヘカラサルヲ憎受是非スヘカラサルヲ是非シ其惑ト云ハ男ニ非ヲ男ト知女ニ非女ト知ル自ヲ分他ヲ隔其不覺ト云ハ即自己根彌ヲ不知万法生処ヲ不知一切処ニ智惠ヲ失是ヲ無明ト名是ハ思慮慮ナク緣塵ナシ心本清淨ニ余緣染コナシ此心ヲ一變ヲ不覺ト云此不覺ヲ覺知スレハ自己ノ心本清淨也自性靈明ナリ如是明得者ハ無明即破テ十二輪轉終空四生六道速亡ヌ人々本心如是ナル故生滅隔ナク造作ノ品ナシ故憎ナク愛ナシ増ナク減ナシ唯寂々然靈々然諸人者本心ヲ見得ント思万妄放下シ諸緣ヲ休息メ善惡ヲ不思且鼻端ニ眼ヲカケテ本心ニ向見ヲ一心寂ナル時諸相皆盡メ其根本ノ無明既破故枝葉業報即不存故無分別ノ処ニト、コホラス不思議ノキワニ不拘常住ニ非無常非無明アルニ非清淨ナルニ非諸佛ノ隔ナク衆生分チナシ清白圓明ノ田地ニ至始本色衲僧タルヘシ若如ハ是諸佛ト同カルヘシ爰ニ至一切有為無為ハ皆盡夢幻ノ如シ取ントスレトモ手空見スレトモ拘コナシ此田地至ヌレハ諸佛モ未出世サル故ヲ明メ衆生モ未顛倒サル処ニ達ス參學未至此田地ニ十二時中ニ礼佛シ

第二十一祖  
婆修盤頭尊者

法は佞の誤り  
テはニの誤り  
羅の下に漢の一  
字を補うべきか  
心ロヲは心ロム  
(試ム)の意か  
至は致の誤りか  
吾の下に妻の一  
字を補うべきか  
ソはノか  
。蠹損により不  
明  
吾は五の誤りか

喩は貴の意か

渡は度の誤りか  
尊の下に者の一  
字を補うべきか  
若は苦か  
。蠹損により不  
明

フはカの誤り  
塵微は微塵の意  
か

四威儀中ニ身心ヲ調トモ唯是人天勝果有漏業報ナリ影形ニ隨カ如有ト云モ實ニ非故人ノ精細ヲ付本心明ヨ例因着早語  
要聞ン夏<sup>(マ)</sup>廣<sup>(マ)</sup>

豫章從來生空裏 枝葉根莖雲外榮エタリ

第廿一祖婆須盤頭尊者因二十祖曰不求道亦不顛倒不礼佛亦不輕慢我不長坐亦懈怠我不一食不雜食我不知足亦不貪欲心  
無所希名之曰道ト時ニ師聞已テ發無漏智ヲ師ハ羅越城人也姓毘舍法父ハ光蓋母ハ嚴一其家富テ子ナシ父母佛塔ニ祈求  
將嗣ヲ覓一タニ母明暗ノ二珠ヲ吞ト夢テ見テ覺メテ孕<sup>(マ)</sup>有七日ニ一羅<sup>(マ)</sup>アリ賢衆ト名其家ニ至ル光蓋礼ヲマウク賢衆  
坐メ是受嚴一出テ拜ス賢衆坐ヲ去テ云礼ヲ法身大士ニカエス光蓋夫故ヲ計<sup>(ハカル)</sup>ナシ終一宝珠ヲ以ヒサマツイテ奉テ其心  
ノ真偽ヲ心ロヲ賢衆又是受殊遜謝ナシ光蓋シノフ事ナシ問云我是丈夫ナリ礼ヲ至スニ不顧吾又何<sup>(マ)</sup>ンソ惠アリチカ師席  
ヲ去ル時ニ賢衆答云吾礼ヲ受珠ヲ納ル即汝身ヲサイハイシ夏<sup>(マ)</sup>ヲ貴汝妻。聖子ヲハラメリ師生<sup>(マ)</sup>テ即世燈惠日タランカ故  
正是去女人ヲ重スルニ非汝力妻二子ヲウムヘシ一リヲハ婆修盤頭ト名ケン今吾重ル処ナリ一リヲハ芻尼ト名ケン爰ニ  
ハ野鶻子ト云昔世尊雪山ニ在テ修道セシ時芻尼頂上スクウ佛已成道メ報受テ那提國ノ王ナル如来記云吾滅後二吾百年<sup>(マ)</sup>  
ニ當テ羅越毘舍佉家ニ生ン聖同胞ナラン今差フナシ後一月ニハタシテ二子ヲ生メリ婆須盤頭十五メ光度羅漢ヲ礼出家  
ス毘婆訶菩薩ヲ感タメニ戒ヲ受然二十祖闇夜多尊者行化メ羅越城ニ至頓教敷揚彼辨論ヲノミ喩<sup>(クトフ)</sup>是首タルモノ婆修盤頭  
名爰偏行名常長坐不臥ノ六時ニ礼清淨無欲ニノ衆ノタメニ歸ラル祖正是渡欲メ此弟子ニ聞云汝師偏行頭陀梵行甚シ正  
佛道ヲ得ヘシヤ時徒衆答云我師精進ナリ何故不可ラン尊即云汝師宛道遠シ設若行メ塵劫ヲ經トモ從來。虛妄ノ本  
也時徒衆云師何ナル惠有テカ吾師ヲ<sup>(マ)</sup>シルヤ尊者答云道ヲ求ス又顛倒<sup>(マ)</sup>セス吾不礼佛又不輕慢吾長坐<sup>(マ)</sup>セス又懈怠ナラス  
我一食又雜食<sup>(マ)</sup>セス吾知是ナラス貪欲ナラス心頭処ナキヲ是ヲ名道ト云婆須盤頭聞竟テ無漏智ヲ發尊者又示云汝吾語ヲ  
解スヤ未シヤ我シカスル故ナリ求道ノ心切ナルニヨテナリ其絃急ナレハ即斷故我ホメス其ヲシテ安樂ニ住諸佛地ニ入  
シメントナリ此因緣殊是學道ノ最秘也所以者何佛ノ成スヘキアリ道ノ得ヘキアリト思テ或持齋梵行長坐不臥礼佛轉經  
メ一<sup>(マ)</sup>ノ功德<sup>(マ)</sup>フサ子テ以得道ノタメニセン悉是花ナキ空花<sup>(ソラニ)</sup>フラシ穴ナキ所ニ穴ヲ生設塵劫塵微劫無量百千万劫ヲ經ト

食一は一食か

且は且か

。蠹損により不  
明。ス字よりテ  
字の廿二字は長  
圓寺本によつて  
補う

。蠹損により不  
明。ン字より衆  
字の二十五字は  
長圓寺本によつ  
て補う

ソはノの誤りか  
密和尚。長圓寺  
本、永光寺本そ  
の他の寫本は密  
とすが松本と  
には夾山和尚と  
ある

。錯簡。第廿二  
祖ノ章ノ末耳ヲ  
塞テ聞ザラント  
スト云ヨリ結語  
ニ至テ都テ六行  
餘ハ第廿一祖ノ  
章五葉下面或ハ  
人ノ言ニ因テ迷  
ハザレト云下ニ  
雜入ス（松本・  
東本第五卷末）

。蠹損により不  
明

若は不要

須は頂か

モ解脱ノ分ナカラン正トカク心希処ナキ是ヲ名テ道ト云然知足ヲ發モ却貪欲ノ本ナリ必長坐好モ是身ニト、コヲル咎  
アリ入食一ナラントスル是又見食ヲ分アリ又礼佛轉經セントスル是即眼花生故一、ノ行業殊是虛妄本全自己本分ノ  
妄ニ非長坐若道ナルヘキンハ生時皆十月坐來是即道ナルヘシ何求ン長齋若道ナルヘクンハ爰ニ病スル妄アラン時食時  
不尔定ヘシ此時是道人ナルヘカラサルカ最大ワツラウヘシ佛弟子様旦清規ヲタテ佛祖ノ操行ヲ示ニ如是然ヲ執メ偏ナ  
ラハ却煩惱ナルヘシ然生死去來ヲ厭テ更ニ道ヲ求ヘクンハ汝無始ヨリ今ニ死此生彼斷ヘカラス何處ニカ道ヲ得ン時節  
然如是諸事ニカカワツテ即道ヲ求ント思ン悉是錯會ナルヘシ更何ナル佛成ヘキヲカ見何衆生迷ヘキヲカ見故一人トメ  
迷人ナク一法トノ悟ヘキ法ナシ是故迷ヲ轉悟トナシ凡ヲ轉聖ナスト云トモ悉皆未悟人ノ言ナリ何凡ソ轉ヘキカ有ン何  
迷ノ悟ヘキ有ン故密和尚云明ノ無悟法ト即迷人長伸兩脚睡無偽亦無真實ト是道ノ躰如是雖然如是初機後學子細ニ  
參徹ノ如是平隱ノ地ニ至ヘシ所以者何自己若實地スル処ナケレハ或人言ニ因迷耳ヲ塞ヲ聞是即無繩自縛シ穴ナキ  
ニ又落將行故情滲漏然子細ニ參到シテ若底ニ徹テ見得明白ナラハ須徹至ヲ又無礙ナリ亦早語アリ此因緣ヲ指說セ  
ント思聞カン事要スヤ

舜若多神非内外見聞声色俱虛空

第一冊(偏)の  
裏表紙の内側の  
書き入れ。(圖  
版3参照)

共二冊	三代和尚御親筆也依大破
帷褙之施主	石濱邑水野嘉兵衛憲正
延享四丁卯歲春王	雲孫靈樹謹識